京王電鉄 安全・社会・環境報告書 2007 CSRレポート

KEIO

編集方針

京王グループは、2005年に初めて「社会環境報告書」を発行しました。2回目の発行となった昨年は、「安全」こそが、当社の最大の使命であるという基本に立ち返り、安全性に関する記載を充実させ、タイトルも「安全・社会・環境報告書 CSRレポート」と変更しました。3回目となる今年も、「安全」が最大の使命であるという考え方が変わることはありませんが、読者アンケートの結果、環境に関するページに興味を示された方々が多かったことをふまえ、環境に関する情報開示を充実させました。

京王グループは、今後も、お客様に安全で快適なサービスを提供することに努めていきます。さらに、地域社会・行政・株主・社員といったステークホルダーと誠実な関係をつくり、地球環境保全に積極的に取り組むことで、「信頼のトップブランド」になることを目指します。

報告書の発行を通じて、さまざまな情報を開示し、皆様とのコミュニケーションを図ることで、企業活動の継続的改善に努めてまいります。巻末にアンケートを挟み込みましたので、ご意見、ご感想などをいただければ幸いです。

[報告範囲・報告時期]

◎本報告書は、京王電鉄単体(鉄道事業部門、開発事業部門、一般管理部門)の2006年度(2006年4月1日～2007年3月31日)の報告書です。
◎環境負荷データおよび環境会計データは、京王電鉄単体の2006年度のデータです。
◎活動事例は、一部2006年度以前・以後の事例、および京王グループの事例を含みます。
◎なお、京王電鉄では2006年6月に組織改正を行いました。本報告書では、改正後の部署名で表記しています。

目 次

■トップメッセージ…… 3
■特集1 運輸安全マネジメントの推進…… 5
■特集2「生活サポートサービス」「子育て支援サービス」の展開…… 7
■特集3「環境を学ぶエコキャンプ」を開催…… 8
■京王グループのCSR…… 9
■安全性報告
鉄道の安全対策…… 13
グループ会社の安全対策…… 15
■社会性報告
お客様とつながりあう…… 17
株主とつながりあう…… 19
社員とつながりあう…… 20
地域社会とつながりあう…… 21
協力会社・行政とつながりあう…… 22
■環境報告
地球とつながりあう
京王電鉄の環境保全活動…… 23
グループ各社の環境保全活動…… 27
2006年度環境目標と活動実績…… 29
環境負荷の推移とレビュー(2004～2006年度)…… 31
2007年度環境目標…… 32
環境会計…… 33
■報告書に関する専門家の意見…… 34

会社概要

社名 京王電鉄株式会社
会社設立 1948年6月1日
本社所在地 〒206-8502
東京都多摩市関戸1丁目9番地1
(登記上の本店所在地
〒160-0022 東京都新宿区新宿3丁目1番24号)
資本金 590億23百万円
従業員数 2,211名(2007年3月31日現在)
営業内容
●鉄道事業
●開発事業(土地、建物の賃貸業・販売業など)

鉄道事業
●路線 京王線、高尾線、相模原線、競馬場線、動物園線、井の頭線
●駅数 69駅
●営業キロ 84.7km
●輸送人員 年間6億1,322万人(2006年度実績)
●車両数 880両(貨車5両含む)

開発事業
●新規賃貸資産の開発
●賃貸資産の管理・営業
●ショッピングセンターの管理・運営
●住宅地等の販売

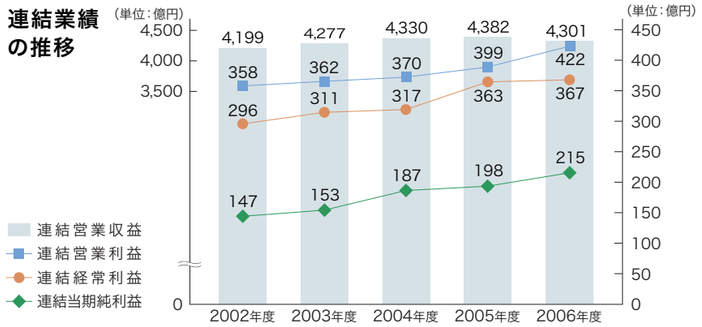
グループ会社数
●全42社

京王グループ 会社一覧

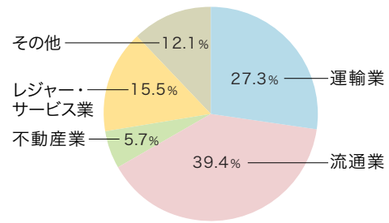
運輸業	流通業	不動産業	レジャー・サービス業	その他
京王電鉄(鉄道)	京王百貨店	京王電鉄(開発)	京王プラザホテル	京王設備サービス
京王電鉄バスグループ	京王ストア	京王不動産	京王プラザホテル札幌	京王重機整備
京王電鉄バス	京王リテールサービス	京王地下駐車場	京王プレッソイン	東京特殊車体
京王バス東	京王書籍販売		京王観光	京王建設
京王バス中央	京王電鉄(ショッピングセンター)		京王エージェンシー	京王電鉄(情報通信)
京王バス南	京王パスポートクラブ		京王レクリエーション	京王ITソリューションズ
京王バス小金井	京王アートマン		レストラン京王	京王アカウンティング
西東京バス	京王食品		京王コスチューム※	京王ビジネスサポート
多摩バス	京王グリーンサービス			京王ユース・プラザ
京王自動車	京王商事※			京王シンシアスタッフ
京王運輸	エリート※			新東京エリート※
御岳登山鉄道※	京王友の会※			京王子育てサポート

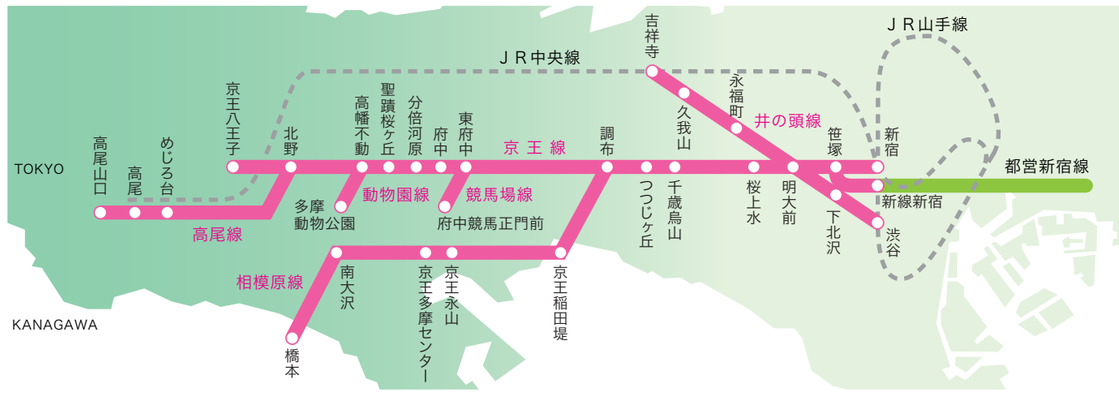
※印は持分法適用会社です。なお、事業セグメント分類上、京王電鉄が重複して含まれております。
(2007年8月末現在)

連結業績の推移



連結営業収益 4,301億円
連結営業収益の構成比率





安全を最大の使命とし、「信頼のトップブランド」を目指して、すべての事業を推進します。

京王グループすべての運輸事業において「運輸安全マネジメント」を推進し、安全を確かなものにしていきます。

安全は、公共機関にとって最大の使命であり、お客様からの信頼の根幹をなすものです。しかしながら、ここ数年、鉄道をはじめとする運輸業界において重大事故が頻発しています。このような状況を受け、昨年10月、輸送の安全確保の強化を目的として、鉄道事業法をはじめとする運輸関係の法律が改正・施行されました。この中では、新たに法の目的に「輸送の安全の確保」が追加されるとともに、事業者に対して「輸送の安全確保が最も重要であることを自覚し、絶えず輸送の安全性の向上に努めなければならない」と規定され、安全管理体制の確立が義務付けられました。
当社では、昨年6月に鉄道事業部門の組織改正を行い、鉄道事業本部計画管理部内に、運輸安全マネジメントの実施を所管する「安全担当」、社員の能力・資質を維持向上するための教育を統括して行う「研修担当」を新設し、安全管理体制の強化をいたしました。また、10月には運輸の安全に関する方針等のPDCAサイクルを適切に機能させるため「安全管理規程」を制定して社員への周知を図ったほか、「安全統括管理者」、「運転管理者」の選任を行いました。また、これにより、経営トップから現場まで一丸となって安全を最優先する意識を高め、輸送の安全性向上の取り組みを進めています。
また、設備面での安全確保のために今年度も、自動列車制御装置（ATC）の導入、連続立体交差化の推進や高架橋の耐震補強など、274億円（前年度比44％増）の安全投資を行い、鉄道事業のさらなる安全性の向上を目指します。
なお、京王グループの運輸事業各社でも、京王電鉄バス、西東京バスなど安全管理規程の制定を義務付けられた会社だけでなく、法律の対象とならない規模の小さい会社においても「運輸安全マネジメント」に取り組んでいます。
これからも、京王グループのすべての運輸事業者にとって「安全」は最大の使命、最高のサービスであり、すべてにおいて優先されるとの信念のもとに事業を進めてまいります。

地球温暖化防止のために、鉄道事業を中心にグループ全体で環境に配慮した事業活動を進めていきます。

来年2008年から、京都議定書に定められた約束期間が始まります。我が国は2008年から2012年までの間に、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの発生量を1990年に比べて6％削減しなければなりません。しかし、この目標をクリアすることはたいへん難しいといわれています。
環境に対する問題意識が高まる中、「人と環境にやさしい乗り物」として、鉄道・バスに注目していただきたいと思います。
1人を1km運ぶ際の二酸化炭素の排出量(g-CO_2)が、鉄道は自家用車の10分の1、バスは自家用車の3分の1で済みます。環境負荷の小さい鉄道、バスをより多くの方々にご利用いただければ、それだけ二酸化炭素排出量を減らすことができます。そのためにも今後ともバリアフリー化など、鉄道・バスの快適性向上を図ってまいります。
また、企業としての取り組みでは、2004年度に、社員一人ひとりの環境意識向上を図り、継続的に環境保全活動に取り組むべく、まず本社ビルにおいて環境マネジメントシステムを構築しました。そして現在は、電鉄の現業事業所やグループ各社で環境マネジメントシステムの構築を進めています。その他、鉄道ではVVVF制御の車両の導入による電力使用量の削減、バスではアイドリングストップによる燃料消費量の削減など、様々な省エネルギー施策を実施し、二酸化炭素の排出量の削減に取り組んでいます。
鉄道・バス以外の京王グループ各社でもそれぞれの事業にあった活動に取り組んでいます。グループ各社のうち、京王建設、京王設備サービス、京王百貨店の3社は、すでに環境マネジメントの国際規格であるISO14001の認証を取得しています。
また、京王電鉄バスグループ5社では、本年3月、国土交通省が推進しているグリーン経営認証を取得しました。これらにとどめず、すべてのグループ会社で環境マネジメントシステムの構築を行い、環境に配慮した事業活動を推進してまいります。

CSR（企業の社会的責任）を果たす活動への取り組みを継続します。

2004年度に事業を開始した「京王リサイクルパッケージシステム」。当社ショッピングセンターやグループ各社から排出される生ゴミをリサイクルして有機肥料を作り、これを利用して育てた野菜を販売したり食材として使用するなど循環の輪が形成されました。グループ外の企業も2006年度末時点で17社が参加し、拡がりを見せています。この「京王リサイクルパッケージシステム」が農林水産省や経済産業省など6省庁が後援する「第3回エコプロダクツ大賞」のサービス部門で「農林水産大臣賞」を受賞しました。
また、京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンターでは、B館2、7階トイレを皮切りに2002年9月以降、各フロアのトイレを順次改装しました。この「京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンター内のユニバーサルデザイントイレ」に関する取り組みが、内閣府の「平成18年度バリアフリー化推進功労者表彰」において「内閣府特命大臣賞」を受賞しました。
どちらもCSRに対する京王グループの取り組みが評価されたものと思いますが、「信頼のトップブランド」を目指す上でもCSRを果たすことがその基礎となるため、さらに安全、コンプライアンス、バリアフリー、環境保全といった一つひとつの取り組みを積み重ねていきます。
その一環として、本年8月3日に、お客様からのお問合わせやご意見・ご要望を承る窓口として「京王お客様センター」を開設しました。お客様の声に真摯に耳を傾けることがすべての事業活動に緊張感を与え、そのことによってより一層の「信頼」を得られるものと考えています。

京王グループは、グループ理念にうたっている「信頼のトップブランド」を目指し、沿線地域はもちろん、社会の多くの皆様から信頼される企業グループになるよう努めています。今回で3回目の発行となるこの「安全・社会・環境報告書2007」では、京王グループ各社の安全確保、サービス向上や環境保全といった様々な取り組みについて、よりわかりやすくお客様の視点で親しみを持って読んでいただけるようにまとめました。今後の事業活動改善に向け、本書ご高覧の折にはご意見、ご感想をお寄せいただければ幸いに存じます。

京王電鉄株式会社 取締役社長 加藤 奥

特集1

運輸安全マネジメントの推進

運輸事業の安全性向上に関する最新の取り組みについて報告します。

鉄道、バス、タクシーなどの公共輸送機関にとって、安全は最大の使命であり、最高のサービスです。京王グループは、グループ理念である「信頼のトップブランド」を確立するために、「安全の確保」をその根幹に位置付け、様々な安全施策に積極的に取り組んでいます。

※京王電鉄の従来からの取り組みについては、p13-14をご覧ください。

運輸安全マネジメントの推進

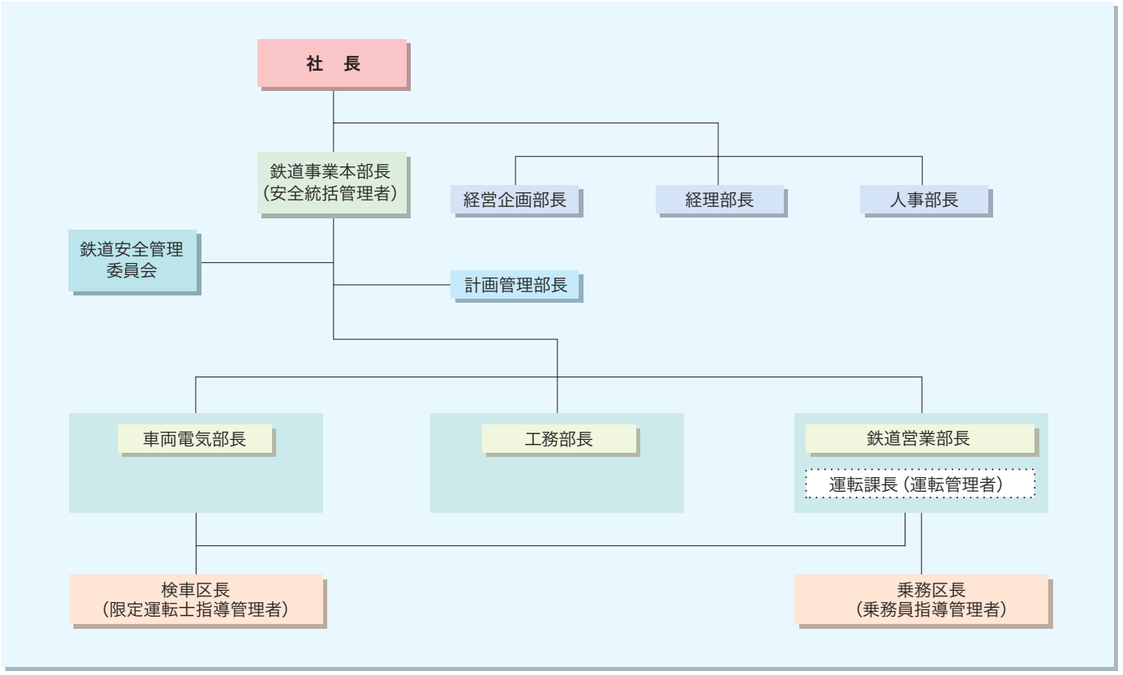
近年、鉄道や航空分野で様々なトラブルや事故が相次いで発生し、これらに共通する因子としてヒューマンエラーとの関連が指摘されています。このような状況を受け「鉄道事業法」等が改正され、2006年10月1日から施行されました。これにより、運輸事業者は「運輸安全マネジメント態勢」を構築し、安全性向上のためのPDCAサイクルを機能させることが求められ、あわせてその実施状況を国が確認する「運輸安全マネジメント評価」が開始されました。

京王電鉄では、輸送の安全を確保するための事業の運営方針や、事業の実施およびその管理体制・方法などについて定めた「安全管理規程」を制定するとともに、安全統括管理者（鉄道事業本部長）と運転管理者（鉄道営業部運転課長）を選任しました。さらに、運輸安全マネジメントの実施を所管する安全担当、社員の能力資質を維持向上するための教育を統括して行う研修担当を新設し、安全管理体制の強化をはかり、経営トップから現場まで一丸となって安全性向上のためのPDCAサイクルを推進しています※1。また、京王グループの運輸業各社（京王電鉄バスグループ※2、西東京バスグループ、京王自動車※2、京王運輸、御岳登山鉄道）でも同様に安全管理体制を構築し、安全性向上に取り組んでいます。

※1 京王電鉄の運輸安全マネジメントに関するより詳しい内容については、当社ホームページの「安全報告書2007」をご覧ください。

※2 京王電鉄バスグループおよび京王自動車の取り組みについてはp15をご覧ください。

京王電鉄の安全管理体制



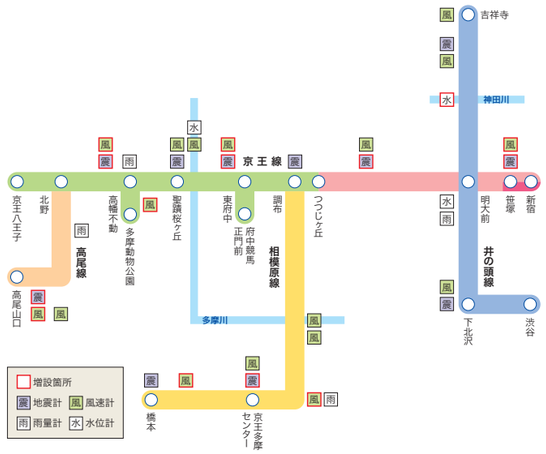
鉄道事業における自然災害対策の強化

※その他の自然災害対策についてはp14をご覧ください。

気象情報システムの増強

自然災害への対応を強化するため、沿線に設置している地震計・風速計・雨量計・水位計を更新・増設しました。これにより、沿線の気象状況をきめ細かく把握することができるようになったほか、それぞれの機器で測定したデータを、鉄道総合指令所をはじめとした各現業事務所で監視できるシステムを構築したことで、より迅速な対応が可能になりました。

地震計はこれまでの5箇所から11箇所に増設し、ほぼ全線にわたって均等に設置しました。地震が発生した場合、運転規制によるお客様への影響をできる限り少なくするため、下の図のように、京王線・井の頭線を6つのエリアにわけて区間ごとに運転規制を行います。また、風速計は、高架区間や橋梁付近を中心に10箇所設置していましたが、新たにビル風や風の通り道など強風の予想される7箇所に増設したほか、都市型の集中豪雨に対応するため、水位計を1箇所増設しました。



気象庁の「緊急地震速報」を活用した「早期地震警報システム」の導入

京王では沿線に設置している地震計が一定以上の震度を感知すると、列車無線を通じて自動的に全列車の乗務員に対して地震の発生と安全な場所への停車を通知する装置を1998年から稼働していますが、地震への対応をさらに強化するため、気象庁の「緊急地震速報」を活用した「早期地震警報システム」を導入しました。

「緊急地震速報」は地震の初期微動（P波）を観測し、その後に来る大きな揺れ（S波）の規模や到達時間を事前に知らせるものです。「緊急地震速報」を鉄道総合指令所で受信すると、列車無線を通じて自動的に全列車の乗務員に対して警報を送ることで、より早期に地震への対応を図ります。

特集2

「生活サポートサービス」「子育て支援サービス」の展開

「住んでもらえる、選んでもらえる沿線」づくりを目指して、地域社会との協働による新しいサービスを提案します。

少子高齢化が進むなか、京王沿線が将来にわたり活力を維持できるサイクルをつくりあげるため、高齢者世代が生き生きと暮らせる街づくり、子育て世代が暮らしたくなる街づくりに、積極的に取り組んでいます。高幡不動駅で「生活サポートサービス」や「子育て支援サービス」といった実験的な試みを始めるなど、今後も「沿線価値の向上」の実現に向けた施策を着実に展開していきます。

生活サポートサービス「京王ほっとネットワーク」オープン

暮らしに役立つサービスを提供するため、2007年3月、京王高幡ショッピングセンター内に「京王ほっとネットワーク」を開設しました。

「京王ほっとネットワーク」では、京王ストア、京王アートマンなどでのお買物商品を自宅へ宅配するサービスを通じて、お客様との間に信頼関係を築き、潜在的なニーズを収集します。地元の信頼できる事業者とのネットワークを構築し、京王が紹介することで、幅広く質の高いサービスを提供し、自治体、住民、地元事業者など地域全体でメリットを共有していきます。

沿線の方々が困っていること、して欲しいサービスを把握し、サービスメニューを拡充することで、生活サポートサービスのネットワークを構築し、沿線にお住まいの方々の生活利便性を高めていきます。

京王ほっとネットワーク

子育て支援事業を展開

京王電鉄では、子育て支援事業の具体的な取り組みとして、高幡不動駅前に「子育て支援マンション」（2008年3月竣工予定）を建設しています。このマンションは、東京都認証保育所（申請予定）や自治体の子育て支援施設が併設された賃貸マンションです。住居部分には、子育て中の社員の声などをもとに、子育てしやすい機能やデザインを取り入れています。また、京王多摩川駅前にも東京都認証保育所（申請予定）の建設を進めています。

これらの保育所の運営は、2007年4月設立のグループ会社「京王子育てサポート」が行い、京王多摩川が2008年3月に、高幡不動は2008年4月に開業予定です。

今後も沿線で保育所や子育て支援施設を自治体から受託するなど施設の開設を進め、“子育てがしやすい沿線”づくりに積極的に取り組んでいきます。

子育て支援マンション完成予想図

住民参加型の沿線コミュニティサイト「街はぴ」開設

2007年4月25日、京王線・井の頭線全69駅の住民参加型コミュニティサイト「街はぴ」を立ち上げました。沿線にお住まいの方々の力をお借りして、京王沿線の魅力をアピールしていただくことで、地域の活性化や沿線価値の向上につなげていきます。

住民参加型コミュニティサイト「街はぴ」
http://www.happy-town.net/

街はぴライター記事

一般の方々から公募した「街はぴライター」が、沿線の街に関するとっておきのクチコミ情報を発信しています。

スペシャルライター記事

沿線にゆかりのある著名人が沿線の魅力などに関する記事を掲載しています。

街こみゅ

共通の趣味や、お住まいの地域などでコミュニティを立ち上げて、メンバー募集をしたり、掲示板で情報交換できる機能です。

特集3

「環境を学ぶエコキャンプ」を開催

高尾の森わくわくビレッジで、次世代を担う子どもたちのために環境について考えるエコキャンプを開催しました。

高尾の森わくわくビレッジは、2005年4月にオープンした社会教育施設です。東京都から委託を受け、京王グループが総力を挙げて、社会教育の分野で豊富な実績をもつ東京YMCAグループと協働して運営しています。2006年度は子どもたちが環境について考えるきっかけづくりとして、「環境を学ぶエコキャンプ」を開催しました。京王電鉄初の試みとなる社員参画型の地域・社会貢献事業です。

「環境を学ぶエコキャンプ～目指せ！地球防衛隊～」を開催

2006年8月23日～24日の1泊2日で、高尾の森わくわくビレッジにおいて「環境を学ぶエコキャンプ」を開催しました。沿線にお住まいの方を中心に多くのご応募をいただき、小学校2～6年生の児童44名が参加しました。

近年、企業の地域・社会貢献活動は、資金提供だけではなく、社員が自ら地域の方と共に活動することが求められるようになってきました。こうした背景をふまえ、沿線の方々に直接働きかける環境活動として、次世代を担っていく子どもたちと一緒に身近な環境について考えるキャンプを実施しました。

有志の社員がグループリーダー

社員が地域・社会貢献活動に参加することで、意識が変わり、企業のCSR体質の強化にもつながります。今回のキャンプでは、子どもたちのグループリーダーの役割を担う社員を募集し、各部署からの有志9名の社員が学生ボランティア5名と共に子どもたちの活動のサポートをしました。

リーダーの役割・安全管理のトレーニング

安全かつ学びの多いキャンプ開催を目指し、終業後や休日に講義や実技のトレーニングを実施し、リーダーとしての基本を身につけて臨みました。当日は、グループの子どもたちと24時間生活を共にし、時にリーダーとして子供たちの活動を見守り、時に子どもたちと同じ視線で一緒に感じ、考え、その気づきをサポートしました。

野外技術のトレーニング

環境について考えるプログラム

プログラムは、楽しみながら子どもたちが自分自身で感じ、考えることに重点を置いて組み立てました。全員が、地球防衛隊として地球を救おう！というテーマを掲げ、大人に教えられたことを覚えるのでなく、子どもたち自身が気づき、考える機会を提供しました。夏野菜カレー作りではゴミの減量に努めて野菜はすべて皮ごと調理しました。生ゴミを使って堆肥づくりをし、その堆肥で畑作業をして食物の循環を実感しました。生活廃水の水質調査を行い、普段何気なく流している生活廃水が川や海に与える影響の大きさについて考えました。このように子どもたちが明日からの生活の中で気軽に始められる、環境に優しい工夫のヒントを持ち帰ってもらえるようなプログラムとしました。

土壌生物の調査

生活廃水の調査

今後への期待

参加した子どもたちの保護者の方からは好評で、こうした活動が今後も継続されることを応援していただけるコメントが寄せられました。中には、今まで家庭で何度注意しても電気を消し忘れたり必要以上に水道の水を使っていたお子様が、キャンプ終了後にはまめに電気を消し、お刺身の醤油の量を調整するなど、生活態度に変化が見られたといった、嬉しい報告もいただきました。なお、2007年も8月3日から4日に同様のエコキャンプを開催し、前回を上回る52名の子どもたちが参加しました。今後も、こうした活動を継続し、さらに発展させていくよう努めてまいります。

社員一人ひとりが、
社会から信頼されるブランドを築いていきます。

**京王グループは、グループ理念として「信頼のトップブランド」になることを、社会に対して宣言しています。
2004年4月に制定した「京王グループ行動規範」の中で、私たちは事業に関わるすべてのステークホルダーを尊重すること、
社会に貢献すること、環境保全に取り組むことなど、企業としての社会的責任を果たしていく意思を表明しています。
私たちは、社員一人ひとりが、企業の社会的責任（CSR）を意識し行動することによって、
社会から信頼されるブランドを築いていきます。**

京王グループ 理念

私たち京王グループは、
つながりあうすべての人に誠実であり、環境にやさしく、
「信頼のトップブランド」になることを目指します。
そして、幸せな暮らしの実現に向かって
生活に溶け込むサービスの充実に日々チャレンジします。

2003年1月1日制定

京王グループ スローガン

あなたと あたらしい あしたへ——京王グループ

京王グループとのつながり

京王グループ行動規範

「信頼のトップブランド」になるため、
私たちは以下のとおり行動します。

企業活動を通じて社会に貢献します
- お客様の幸せな生活に資する商品･サービスを提供します
- 常に商品・サービスの品質、安全性の向上を追求します
- 適時適切な情報開示に努めるとともに、お客様の声を事業活動に活かします

法令・社内規程を遵守し、健全・公正な企業活動を行って企業価値の向上に努めます
- 全てのステークホルダー（お客様･株主･取引先･社員などの関係者）に対して、相互に適正な利益を確保できるよう互いを尊重します
- 法令を正しく理解し､法令に則った手続きを行うことで、公的機関等と適切な関係を維持します
- 反社会的な組織､人物に対しては断固とした姿勢で臨みます
- 知的財産や情報の取扱いに細心の注意を払います
- 社員個人の権利を尊重し､社員同士が信頼しあえる風通しの良い職場づくりをします

社会の一員としての責任を果たします
- すべての人にやさしい環境づくりを進めます
- リサイクル､省エネなど環境保護に積極的に取り組みます
- 社会に貢献し、社会と共に発展するための活動に取り組みます
- 社会の変化に対応し、よき企業市民であるためのチャレンジをしつづけます

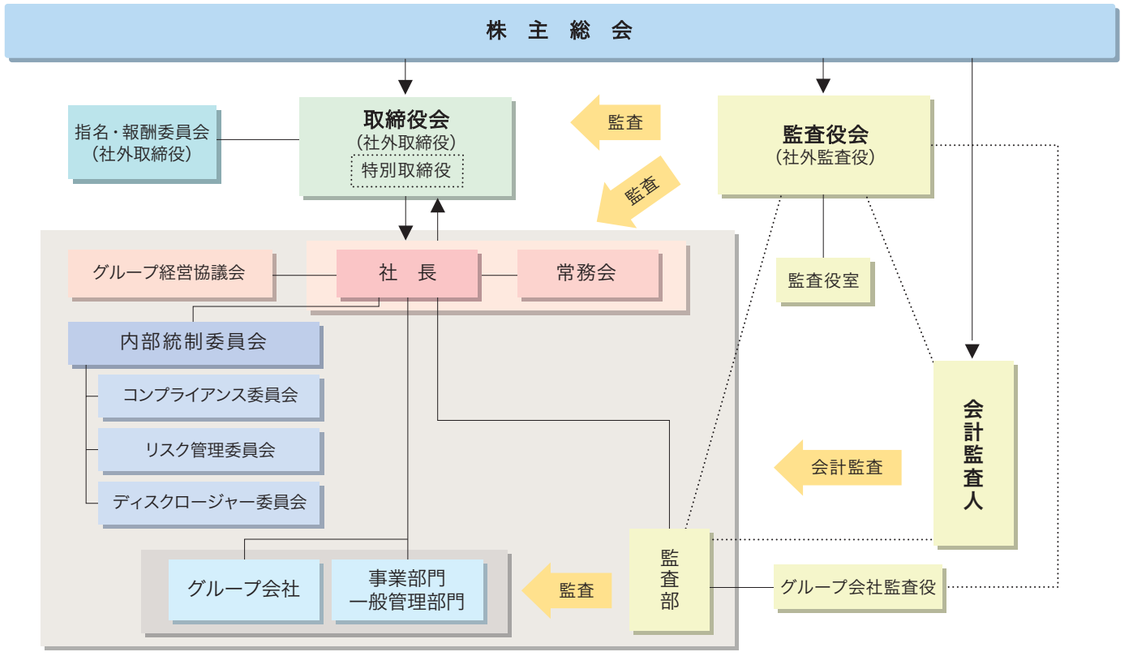
コーポレート・ガバナンスと内部統制

コーポレート・ガバナンスに対する考え方
「京王グループ理念」に基づき、つながりあうすべてのステークホルダーからの信頼を得て、企業価値向上を実現するため、コーポレート・ガバナンスの充実、強化に取り組んでいます。

コーポレート・ガバナンス体制
取締役会は社外取締役２名および主要なグループ会社の社長6名を含む17名で構成し、経営上の重要な事項についての決議や業務執行の監督を行うほか、特別取締役を選定し、迅速な意思決定を行っています。また、任意の諮問機関である指名・報酬委員会において役員の人事・報酬について審議するなど、ガバナンス体制の充実に努めています。さらに、グループ経営協議会、京王グループ社長会を定期的に開催し、グループガバナンス強化にも積極的に取り組んでいます。監査役会は、社外監査役3名を含む4名で構成しています。監査役は監査役会で定めた基本方針に基づき取締役の職務執行の監査を実施するほか、重要な会議での意見陳述などを行います。

内部統制システムの充実
京王グループは「信頼のトップブランド」を確立するため、内部統制システムの充実に努めています。2006年5月に施行された会社法を受けて、「コンプライアンスの確保」「財務報告の信頼性の確保」「業務の有効性・効率性の確保」「資産の保全」を目的として、「京王グループ内部統制システムに関する基本方針」を電鉄を含むグループ全社の取締役会で決議しました。また2007年3月には、内部統制に関する組織や機能を統括するための内部統制委員会を新設したほか、コンプライアンス委員会、リスク管理委員会、ディスクロージャー委員会を設置するなど、内部統制システムの確立と整備運用に努めております。

コーポレート・ガバナンス体制



コンプライアンス

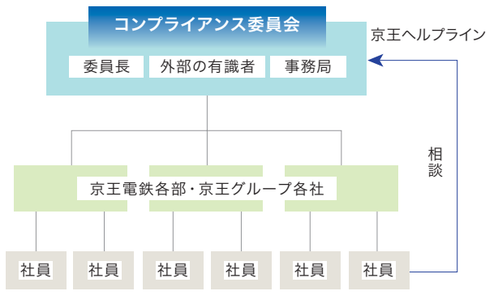
コンプライアンスに対する考え方

コンプライアンスは、一般的に「法令遵守」と訳されますが、法令遵守にとどまらず、社会の規範やルールまで含めて遵守することで、社会の期待に応えることが京王グループの取り組むべきコンプライアンスであると考えています。
コンプライアンスに取り組むことにより、不祥事の起きにくい風土をつくり、誠実な企業としてお客様や社会から一層の信頼を獲得していきたいと考えています。

京王グループのコンプライアンス体制

「京王グループ行動規範」をグループ全体に浸透させ、継続的に取り組んでいくため「コンプライアンス体制」を構築しています。この体制の特徴として、「シンプルなコンプライアンス委員会」「誰もが相談しやすいヘルプライン」の2つがあげられます。
「コンプライアンス委員会」は、委員長、外部の有識者、事務局によるシンプルな組織となっています。委員長は取締役会によって選任され（現在は法務部分担役員が担当）、その諮問機関としての外部有識者（弁護士・会計士など）を置いています。事務局は、京王電鉄の法務部と広報部が務めています。
また、何かおかしいことに気づいたり、悩みを抱えたりした社員が、身近に相談できる窓口として、「京王ヘルプライン」があります。「京王ヘルプライン」は、京王電鉄の法務部コンプライアンス担当と外部の法律事務所の2箇所に設置しており、2006年4月に施行された公益通報者保護法にも対応しています。これらの周知を図るために、行動規範とヘルプラインの連絡先を明記した名刺大のカードを全社員に配布しています。さらに2007年3月には、京王グループ行動規範を、事例をまじえて解説した「京王グループコンプライアンスブック第2版」を発行し、グループ社員に配布するとともに、京王電鉄本社部門を対象とする研修を実施し、コンプライアンスについての再認識を図りました。

京王グループのコンプライアンス体制



リスクマネジメント

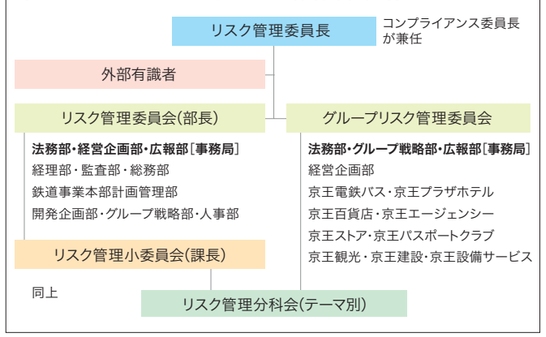
リスクマネジメントに対する考え方

鉄道事業を中心に企業活動を展開している京王グループでは、「お客様の安全」をリスク対策における最重要課題と認識しています。京王グループ理念にある「信頼のトップブランド」にふさわしいリスクマネジメントを実施するため、2005年8月から京王電鉄で先行して取り組みを開始し、2006年8月にはグループとしてのリスクマネジメント体制を構築しました。京王グループでは、リスクマネジメントとコンプライアンスを表裏一体のものとして運営し、リスクマネジメント活動について、コンプライアンスの視点からもチェックしながら推進する仕組みをとっています。

京王グループのリスクマネジメント体制

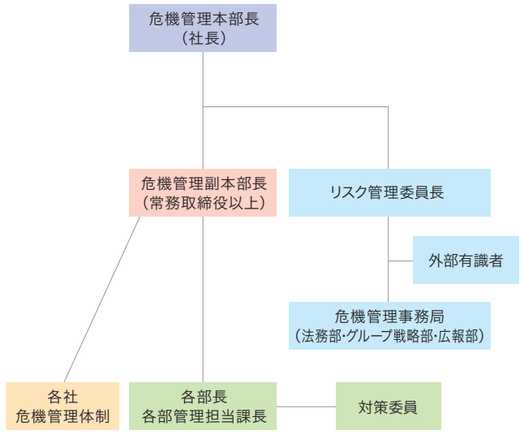
京王グループのリスクマネジメント体制は、平常時の体制と、危機発生時の体制の2つからなっています。平常時の体制は、京王電鉄の部長で構成する「リスク管理委員会」と、グループの主要会社の社長で構成する「グループリスク管理委員会」があり、ともにリスク管理委員長のもとで定例会議を開催し、リスク対策重点項目の設定や、リスク対策の実施状況の確認、リスクマネジメントに関する活動報告などを行います。リスク管理委員長は、コンプライアンス委員長が兼任し、コンプライアンスと表裏一体の活動ができる仕組みになっています。このほか、「リスク管理小委員会」「リスク管理分科会」などの組織を持ち、平常時のリスク対策を実効的に行えるようにしています。

京王グループのリスクマネジメント体制（平常時）



一方、会社にとって重大な危機が発生した場合は、社長を本部長とする臨時組織「危機管理本部」を設置します。
危機への速やかな対応のため、常務取締役以上の役員1名を危機管理副本部長とし、リスク管理委員長と危機管理事務局が活動をサポートします。グループ各社で発生した危機のうち、重大なものについてはグループ各社の危機管理体制と京王電鉄内に設置する危機管理本部が一体となって対応します。
なお2006年度は、グループ各社の社長や管理担当役員等を対象とした危機管理講習会を、12月および2月に開催しました。

京王グループのリスクマネジメント体制（危機発生時）



個人情報保護の取り組み

京王グループでは、2005年4月の「個人情報保護法」全面施行にあわせ、「京王グループ個人情報保護方針」を定め、ホームページ上で公開しています。また、個人情報の安全対策を重要な課題と認識し、個人情報が「漏れない」「なくさない」「盗まれない」「改ざんされない」を合い言葉に、各社での個人情報管理体制の強化を図ってきました。さらにコンプライアンス研修の中でも、個人情報保護に関する内容を取りあげるなど、社員の知識と意識向上のための継続的な取り組みを実施しています。

環境保全

環境保全に対する考え方

京王電鉄では、2000年11月に環境基本方針を定め、環境法令遵守はもちろんのこと、各事業の特性に応じた省エネルギー化や廃棄物削減、資源リサイクルなどを積極的に推進してきました。その後、環境問題に対する社会的関心が一段と高まるなか、環境保全への取り組みはグループ共通の課題であるとの認識から、2004年12月に「京王グループ環境基本方針」を制定しました。グループ社員一人ひとりが環境方針の内容、なかでも自分の業務に関わりがある項目について十分理解し、仕事に活かしていけるよう、環境教育などを通じて浸透を図っています。さらに、2008年度末までにグループ全社での環境マネジメントシステムの構築を目指し、2007年3月、グループ会社18社※が、システムの構築に着手しました。

※西東京バス	京王リテールサービス	京王レクリエーション
多摩バス	京王パスポートクラブ	京王プレッソイン
京王食品	京王運輸	京王エージェンシー
レストラン京王	京王書籍販売	京王アートマン
京王プラザホテル	京王観光	京王自動車
京王不動産	京王ストア	京王プラザホテル札幌

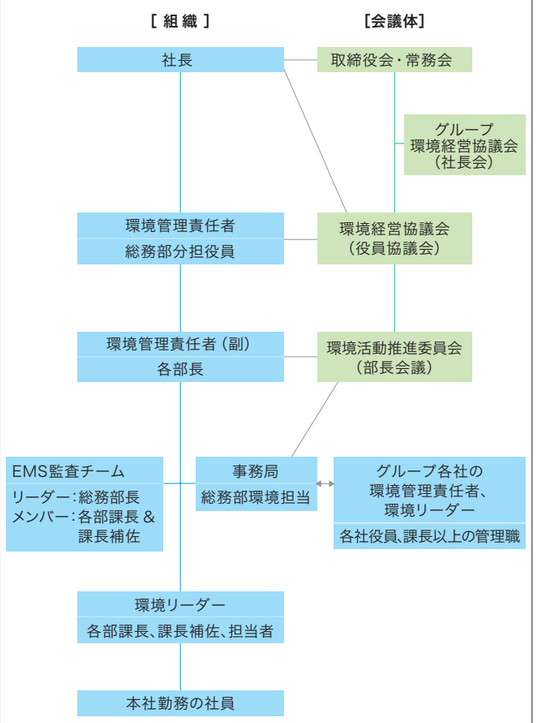
京王グループ環境基本方針

私たちは、「環境にやさしく」というグループ理念に基づき、環境問題を地球規模で考え、持続的発展が可能な社会の実現を目指して、環境保全に配慮した事業活動を行います。

1. 地球温暖化防止のため、エネルギーの効率利用に努めます。
2. 循環型社会実現のため、廃棄物の削減、リサイクルおよび適正処理を図るとともに汚染の予防に努めます。
3. 環境に関する法令、条例、協定などを遵守します。
4. 地域社会との調和を目指し、騒音、振動の抑制ならびに緑化活動の推進に努めます。
5. より良い環境の実現に向けて、地域や社会の環境保全活動に積極的に参加します。
6. 従業員一人ひとりの環境意識向上を図るため、啓蒙・教育活動を実施します。
7. これら環境保全活動を推進するため、鉄道をはじめとするすべてのグループ会社の事業活動において環境マネジメントシステムを構築し、継続的改善に取り組みます。

2004年12月9日制定

環境マネジメント推進体制



すべてのお客様に、安全に鉄道をご利用いただけるよう努めています。

京王電鉄の鉄道事業は、「京王線」と「井の頭線」などからなり、東京都西部地域を中心に神奈川県北部にも一部またがる84.7kmの路線を、1日約169万人のお客様にご利用いただいています。私たちは、すべてのお客様に安心して鉄道をご利用いただけるよう、さまざまな安全対策を実施しています。

※運輸安全マネジメントなどについてはp5-6をご覧ください。

鉄道総合指令所

鉄道総合指令所には列車の運行を管理する運転指令と、電力の供給を管理する電力指令の機能を有しており、平常時だけでなく、事故や災害時の対応を迅速に行うことができるよう、連携を強化する体制を整えています。なお、鉄道総合指令所の建物には免震機能や落雷を防止するシステムを備えています。

運転指令

列車の運行を円滑に行うため、TTC(列車運行管理システム)により、列車の進路設定、出発指示合図などを自動制御するほか、地震・風速・雨量等の様々な情報の収集・把握を行っています。事故の発生時などには、列車の位置や遅れなどを総合的に判断し、運行ダイヤの整理・復旧を指示します。

TTC（列車運行管理システム）

電力指令

電力指令では、列車運転用電力、駅設備や信号保安設備などに用いる電力を供給する19箇所の変電所の運転状態や送電状況を集中監視制御システムにより、24時間体制で監視しています。万一の事故や停電のときは、ただちに予備の施設への切替などを行い、列車運転への影響を最小限にするなど電力の安定供給確保に努めています。

列車の速度超過等防止対策

ATS（Automatic Train Stop：自動列車停止装置）

信号の表示パターンに対応する速度をチェックし、決められた速度を超えている場合、自動的にブレーキがかかり、速度を下げることができる多情報変周式ATSを全線に採用しています。また、ATSの仕組みを応用して、過走や誤出発、列車種別の勘違いを防止する装置を設置しています。

このほか、停車駅の接近告知などにより、停車駅を誤って通過することを防止する装置のほか、運転士が不測の事態によりハンドルから手を離した場合、自動的に非常ブレーキがかかる装置や車掌が強制的に非常ブレーキをかけることができる装置を車両に搭載しています。

ATC（Automatic Train Control：自動列車制御装置）

2006年10月に「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」が改正・施行され、曲線・ポイント（分岐器）・線路終端等へ列車が進入する際に、安全上支障のない速度まで自動的に減速させることができる装置の導入が義務付けられました。現行のATSを改良する方式で省令の改正に対応はできますが、信号機ごとに断片的に「点」で速度を管理する方式のATSではなく、車両に搭載したコンピューターが連続的に「線」で速度を管理し、より安全性の高いATCを導入することとしました。2010年度までに京王線・井の頭線全線への導入を予定しています。

ホーム安全対策

間隙注意灯、スレットライン

曲線ホームなど、車両とホームとの間隔が広く開いてしまう場所での乗り降りにご注意いただくため、光の点滅で隙間をお知らせする間隙注意灯、スレットラインを15駅に設置しています。

隙間をお知らせするスレットライン

列車非常停止ボタン、転落検知装置

万一、お客様がホームから転落した場合などに、ホーム上の「列車非常停止ボタン」を押すことにより、駅係員や乗務員などに異常を知らせる装置を全駅のホームに20m間隔で設置しています。また、車両とホームとの間隔が広く開いてしまう駅には転落を検知するマットを設置しています。

列車非常停止ボタン

ホーム下退避口

ホームの下には緊急時に避難することができる退避スペースを設置しています。また、退避スペースのないすべての箇所には、ホームに上がりやすくするためのステップを設置しています。

ホーム下退避スペース

踏切安全対策

踏切解消への取り組み

運転保安の向上のため、線路と道路の立体交差化や整理統合による踏切の解消を図っています。連続立体交差化については、1964年に京王線の新宿～初台間を地下化したのをはじめ、1993年に長沼・北野駅付近を、また、1994年には府中駅付近をそれぞれ高架化しました。立体交差化などによる踏切の整理統合の結果、踏切数は1955年度の322箇所から156箇所に減少しています。

踏切支障報知装置

踏切内で事故発生の危険性が生じた場合に、ボタンを押すことで列車の運転士に異常を知らせることのできる踏切支障報知装置を156箇所すべての踏切に設置しています。

踏切支障報知装置

踏切障害物検知装置

踏切障害物検知装置

しゃ断桿が降りた後に、踏切内に立ち往生した自動車などを検知することができる踏切障害物検知装置を91箇所の踏切に設置しています。

踏切の歩道部分のカラー舗装化

踏切内における歩行者の安全確保のため、踏切内の車道と歩道を明確に区分するカラー舗装化を歩道のあるすべての踏切で実施しています。

歩道部分のカラー舗装化

くぐりぬけ防止啓発テープ

しゃ断棹が下りた後の踏切内への進入を防ぐため、すべての踏切のしゃ断棹にくぐりぬけ防止の啓発テープを設置しています。

くぐりぬけ防止啓発テープ

調布駅付近連続立体交差事業の推進

調布駅付近では、連続立体交差事業※を2012年度の完成を目標に東京都、調布市と協力しながら進めています。この事業では、京王線の柴崎駅～西調布駅間の約2.8kmと相模原線の調布駅～京王多摩川駅間の約0.9kmを地下化し、鶴川街道や狛江通りなどの道路と立体交差を図ることで、18箇所の踏切を廃止します。また、京王線笹塚駅以西における鉄道立体化の早期実現に向け、関係機関との協議を積極的に進めてまいります。

※連続立体交差事業：連続立体交差事業は2箇所以上の幹線道路を含む多くの道路と鉄道を連続的に立体化するものであり、道路整備の一環としてその財源はガソリン税、自動車重量税などをもとにしています。

自然災害対策

気象情報システムの増強については、特集p6をご覧ください。

地震対策

阪神淡路大震災後の緊急耐震補強を1996年度に完了していますが、新たな耐震基準に見合う構造物とするため、引き続き高架橋柱の耐震性向上策を行っています。

雷対策

線路内の電気設備への落雷を防止する対策として、電車線より一段高いところに避雷針の役割を果たす「架空地線」と呼ばれる防護線の設置を進めています。

雪害対策

従来のひし形パンタグラフを着雪面の少ないシングルアームパンタグラフに更新しています。また、車両基地等の電車線には着雪・着氷を防ぐためにヒーターを内蔵しています。このほか、分岐器（ポイント）には電気融雪器を設置しています。

シングルアームパンタグラフ

列車の脱線防止対策

車両については、荷重の適正なバランスを保つよう、左右の車輪にかかる荷重のばらつきを計測・調整しているほか、脱線防止対策として推奨されている形状の車輪を従来から使用しています。また、線路については、半径300m以下の曲線や道床のない橋梁、踏切などにガードレールを設置しているほか、定期的に検測機器による計測管理を行い、適正な線路の状態を保つよう務めています。

脱線防止のガードレール

京王グループ各社の安全への取り組みについて報告します。

京王電鉄バスグループの安全対策

高齢者から子どもまで、身近な交通手段として利用されることが多いこともあり、京王電鉄バスグループでは、発車・停車時の車内転倒事故や右左折時の交通事故など、さまざまなリスクを排除・管理し、安全の確保に努めています。
2006年10月には「運輸安全マネジメント」の取り組みを開始し、安全管理規程の制定、事故件数削減などの目標策定、安全に関する組織体制・指揮命令系統の構築などを行うとともに、これらに関する情報をホームページ※で開示しています。また、2007年4月には、関東の民営バスでは唯一の「運転訓練車」を導入しました。運転訓練車には、運転の様子を映像と音声で記録する装置のほか、アイマークレコーダー、安全確認装置、燃費測定装置など、安全確認や省エネ運転をチェックできる装置が備えられています。画像と数値で確認できるため、運転者自身の「気づき」から「改善」につながることが大きな特長です。今後もこういった現場レベルの改善と、運輸安全マネジメントの仕組みを連動させ、PDCAサイクルを効果的に回していくことで、より安全・快適な輸送手段の実現に努めます。

運転訓練車のデータ再生画面

※ http://www.keio-bus.com/outline/page09.html をご覧ください。

京王自動車の安全対策（タクシー・ハイヤー）

タクシー・ハイヤー会社にとっても、事故の撲滅は最重要課題のひとつです。京王自動車では、従来から会社と労働組合が一体になって、乗務員の危険予知トレーニングや個人指導など、さまざまな安全対策を講じてきました。2005年6月には、「ドライブレコーダー」を全車約1,000台に装備。これは、フロントガラスにカメラを設置し、運転中の進行方向の動画を記録する装置で、事故原因の分析やヒヤリハットの状況を映像で確認することができます。京王自動車ではドライブレコーダーを、どうすれば事故防止に活用できるか、本社と現場が一体になって検討した結果、約210班・2,200人の乗務員が、各人の日常の運転画像やヒヤリハット映像を見ながら安全対策を検討する、乗務員参加型の新しい安全教育が生まれました。

ドライブレコーダー

ドライブレコーダーを活用した乗務員参加型安全教育

同社では、さらに事故処理や社員の安全教育を担当する安全運行部を2005年6月に立ち上げており、これが「運輸安全マネジメント」への迅速な取り組みを可能にしました。2007年2月には、重点施策・目標をまとめた安全報告書を発行し、各営業所の掲示板で情報開示を行っているほか、安全運行部で監査員を育成し、内部監査も進めています。また「エコドライブ管理システム※」を導入することにより、安全・環境視点での継続的な改善につなげています。

※エコドライブ管理システムの導入については、p28をご覧ください。

京王運輸の安全対策（トラック）

京王運輸の多摩営業所（引越センター）が2005年12月、財団法人全日本トラック協会によって「安全性優良事業所」に認定されました。この認定制度は、全国6万社とも言われるトラック運送事業者のなかで、お客様がより安全性の高い事業者を選びやすくすることを目的としています。認定審査では「安全性に対する法令の遵守状況」「事故や違反の状況」「安全性に対する取り組みの積極性」の3つの切り口で、組織体制から業務の実態までを厳しくチェックされます。京王運輸では、業界に先駆けたデジタルタコグラフの導入をはじめ、アイドリングストップ、省エネ、点検の精度向上などに取り組んできました。京王運輸の認定事業所は、多摩、江東の2箇所で、今後、立川、世田谷も認定を取得する見込みです。

安全性優良事業所に交付される「Gマーク」が貼付された京王運輸多摩営業所のトラック

京王百貨店の安全対策

お客様に安全で安心な食品を提供することは、京王百貨店の最優先課題です。食の安全を実現するための組織として「食品安全衛生委員会」を設け、店内厨房では自主点検表に基づく厨房点検、厨房従事者や調理器具等の衛生状況のチェック強化、作業環境の改善など、スピーディーな意思決定による改善を図っています。売場では、消費・賞味期限内に安心して召し上がっていただくために販売期間の自主基準を設定しているほか、食物アレルギーをお持ちのお客様にも安心してお買い上げいただけるよう、特定原材料の売場での表示の徹底を図るなどの対策を実施しています。
また、災害時にもお客様の安全を確保できるよう、建物全体の耐震補強をはじめ、エスカレーター区画の整備などを行っています。さらに、避難導線のチェック等を目的に防災特別点検を月2回行っているほか、定期的な消防・避難誘導訓練の実施や防災朝礼による社内啓発など、ハード・ソフト両面から対応をとっています。

京王プラザホテルの安全対策

京王プラザホテルでは、お客様に安全なサービスを提供するため、警備・防災・食品衛生の専門スタッフを配しています。置引き・盗難などの犯罪やテロ対策として、監視カメラの設置、ガードマンによる24時間巡回パトロールのほか、毎月防犯週間を設けて社員による防犯パトロールなどを実施しています。防災に関しては、大地震が発生し、2,000人強の人が帰宅できない状況を想定した備蓄食品・トイレなどの防災機材の拡充を図ると同時に、緊急地震速報を活用した防災訓練も実施しています。消防に関しては、自衛消防隊の訓練を毎月定期的に実施しているほか、2007年度から毎月「防災教室」として、消火器の扱い方やお客様の避難誘導など、防災担当者による従業員向け実践的訓練も行っています。
食品衛生に関してはHACCP※の概念にもとづいた衛生管理をソフト面も含めて実施しています。また、東京都の食品衛生自主管理認証制度で規定された大量調理施設のマニュアルに基づき衛生管理を徹底しています。食材の購入では、購買課で食材のルートを確認し、安全なもの以外は購入しない仕組みを構築しており、さらに夏季の食中毒予防として、食品の品目や製造からお客様の口に入るまでの時間を限定しています。

※**HACCP**：原料の入荷から製造・出荷までのすべての工程において、あらかじめ危害を予測し、その危害を防止するための重要管理点を特定して、そのポイントを継続的に監視・記録し、異常が認められたらすぐに対策を取るという食品衛生の考え方・システム。1960年代のアメリカで、宇宙食の安全を確保するために開発された。

HACCPの概念を取り入れたセントラルキッチン

キャップをかぶり、マスクと手袋をして作業をするガデマンキッチン。

作業に使われた器具類は全てここで洗浄。ワゴン類などの大物も一気に洗浄できる。

パソコン上にセンターキッチンの各厨房内の温度、湿度が表示され、毎日チェックしている。

オフィスビルやマンションの安全対策

オフィスビルとして建設した「京王品川ビル」は、地震の際にもビル機能を維持し、損害を最小限に留めるために、積層ゴム支承と弾性支承を組み合わせた最新の「ハイブリッドTASS構法」を1階床下免震構法に導入しました。さらに、主要構造には耐震性・耐火性の両面に優れたRCFT柱※を採用し、地震大国・日本における高層ビルとして世界一安全なビルを目指しました。
また、マンションとして2007年3月に竣工した「トラスティア北野」は、24時間セキュリティ、オートロックシステムなどの安全システムはもちろん、ホルムアルデヒド対策として最高等級の素材を使用するなど、健康面にもきめ細かな配慮を施しています。

※**RCFT柱**：CFT柱（鋼管にコンクリートを充填したもの）を高強度鉄筋で補強した柱のこと。Reinforced Concrete column Formed in steel Tubeの略。

京王品川ビル

京王グループは、すべてのお客様に快適にご利用いただけるよう努めています。

京王グループでは、すべてのお客様に鉄道やバスなどの交通機関やショッピングセンターなどを快適にご利用いただけるよう、バリアフリー化をはじめとしたサービス向上策を推進しています。

京王電鉄（鉄道事業）の快適性向上

よりスムーズに移動していただくための取り組み

エレベーター、エスカレーター

駅構内にエレベーター、エスカレーターなどの設置を進めています。エレベーターは44駅、エスカレーターは31駅に設置しています。

エレベーター

車両とホームの段差縮小

車両とホームとの段差を小さくし、乗り降りをしやすくするために、新宿駅など一部の駅でホームのかさ上げを行っています。また、車両とホームとの間に渡す車いす用スロープ板を全駅に備えています。

幅広自動改札機

車いすをご利用のお客様や大きな荷物をお持ちのお客様などにご利用いただけるよう通路幅を広くした自動改札機を46駅に設置しています。

よりわかりやすいご案内への取り組み

サービススタッフ

電車の利用に不慣れなお客様にも安心してご利用いただけるよう、運賃や所要時間などをご案内するサービススタッフを新宿駅に配置しています。

サービススタッフ

列車運行情報サービス

事故や災害などにより、列車の運行に大幅な遅延が発生した場合などに、全駅の改札口や一部の電車内に設置した電光表示板のほか、京王のホームページや携帯電話のサイト「京王ナビ」などにより、運行情報をお知らせするサービスを行っています。

改札口に設置している電光表示板

行先案内板

列車種別・行先・停車駅などを文字でお知らせする行先案内板を27駅に設置しています。

行先案内板

触知総合案内板

駅構内の配置をどなたにでもご確認いただけるよう凹凸・点字・ピクトグラム（絵文字）を用いた案内板を38駅に設置しています。

触知総合案内板

筆談器

耳の不自由なお客様にスムーズな案内ができるよう、全駅に筆談器を備えています。

筆談器

車内電光表示板・ドアチャイム

車内のお客様に次の停車駅などを文字でお知らせするLED式の電光表示板と、車両のドア開閉を音でお知らせするドアチャイムを設置した車両を増やしています。

安心・快適にご利用いただくための取り組み

だれでもトイレ

車いすをご利用のお客様や赤ちゃんをお連れのお客様などが安心してご利用いただけるよう、折りたたみのベッドや乳幼児用のいすを備えた多機能のトイレを整備しています。これらのトイレのほとんどは、入口付近で点字による案内を行っているほか、オストメイト対応の水洗器具を設置しています。

だれでもトイレ

新型ベンチ

どなたにもベンチを快適にご利用いただけるよう、座面の高さや形状が異なる3タイプのベンチを導入しています。ベンチの支柱には、立ち上がる際などにお使いいただけるよう手すりを設けています。なお、材料の一部に使用済パスネットカードを再利用しています。

新型ベンチ

ホーム待合室

電車が到着するまでの間、お客様が快適にお待ちいただけるよう、冷暖房付きの待合室を47駅に設置しています。

AED

全駅の改札口付近にAED（自動体外式除細動器）を設置しています。※杉並区内の7駅については杉並区が設置しています。

女性専用車

2001年3月から、平日23時以降に新宿駅を発車する急行系列車の最後部1両を女性専用車といたしました。2005年5月からは、平日朝・夕の通勤時間帯に拡大しています。

女性専用車ステッカー

おもいやりぞーん

車内の優先席位置の明確化と、その付近での携帯電話の電源「OFF」など人に優しい車内環境の整備を目的に、優先席付近の吊り皮やシートの色を変えたおもいやりぞーんを全車両に設置しています。

おもいやりぞーん

お忘れ物の取り扱い

駅や電車の中でのお忘れ物を保管するため、お忘れ物取り扱い所を設置しています。また、「お忘れ物管理システム」により、お忘れ物の有無を全駅で確認いただけます。

マナー向上への取り組み

京王マナー川柳

1998年からスパイスの効いた川柳と、漫画家・やくみつるさんのユーモアあふれるイラストで、電車やバスのマナーアップを呼びかけています。2001年からは川柳を一般公募しています。

終日全面禁煙

健康増進法の施行に伴い、受動喫煙を防止するための措置として、全駅で終日全面禁煙を実施しています。

啓発活動

切符の買い方や電車の乗り方など電車の利用方法と、電車を利用する際のルールやマナーについて、子供たちにより理解を深めてもらうために、「交通安全教室ビデオ」を運転士自身が製作・出演し、沿線の小学校・幼稚園で啓発活動を行っています。

京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンターの快適性向上

ユニバーサルデザイントイレ

同ショッピングセンターでは、トイレの改修にあたり、市民参加型のプロジェクトと位置づけ、障がいのある方を含めて多くの方々からのご意見を取り入れました。その結果、このユニバーサルデザイントイレが、「平成18年度バリアフリー化推進功労者表彰」において「内閣府特命担当大臣賞」を受賞しました。なお、竣工後も継続的に機能性などの再検証を実施するとともに、そのノウハウを京王百貨店新宿店等のトイレ改修に活用しました。

ユニバーサルデザイントイレ

京王電鉄バスグループおよび西東京バスグループの快適性向上

京王電鉄バスグループおよび西東京バスグループでは、だれもが乗り降りしやすいバスを目指して、1998年からノンステップバスの導入を開始し、2007年3月末時点で659両に拡大。一部は、乗降時に車体が傾斜し、さらに乗降しやすいニーリングタイプとなっています。これに加え、277両のスロープ板付きワンステップバス、43両のリフト付きバスを導入しており、バリアフリー対応バスの導入率は、民間バス会社ではトップクラスの96.0%（全1,020両中979両）となりました。

ノンステップバス

積極的なIR活動により、株主の皆様とコミュニケーションを図っています。

京王電鉄では、積極的なIR活動に取り組んでいます。
また、株主の皆様に、京王電鉄およびグループ各社に対するご理解を深めていただけるよう、
充実した株主優待制度をご用意しています。
なお、当社株式の大量取得行為に関する対応策（買収防衛策）を、2007年6月に導入しました。

適時適切な情報開示

四半期ごとの業績開示をはじめ、年2回の決算説明会の開催、インベスターズガイド「けいおう」やアニュアルレポートの発行を通じて、財務や株式、営業の概況に関する情報を積極的に開示しています。こうした開示資料やニュースリリースについては、ホームページ上でも公表するなど、適時適切な情報開示に努めています。

インベスターズガイド「けいおう」

また、株主・投資家の皆様への情報開示を行うにあたっての基本的な考え方として、2006年4月「ディスクロージャー・ポリシー」を制定し、本ポリシーに掲げる内容の実現を図るため、ディスクロージャー委員会を設置しました。
ディスクロージャー委員会は、四半期ごとの業績開示にあわせて開催し、決算資料の内容確認を行うことをはじめとして、年間を通じて情報の収集および開示の要否等の判断を行っています。

● ディスクロージャー・ポリシー

当社は、株主・投資家の皆様に、当社の企業価値を適正に評価していただくため、適時適切な情報開示に取り組んでまいります。

(1)金融商品取引法、会社法および東京証券取引所の定める「上場有価証券の発行者の会社情報の適時開示等に関する規則」に則って情報を開示いたします。
(2)(1)に該当しない情報についても、株主・投資家の皆様の判断に大きな影響を及ぼすと考えられる重要な決定事実、発生事実などの情報は積極的に開示いたします。
(3)情報の開示は迅速に行うとともに、株主・投資家の皆様に公平に伝達されるよう努めます。
(4)開示情報の内容については、正確性、明瞭性、継続性を重視いたします。
(5)開示した情報に対する株主・投資家の皆様からの声を社内で共有し、適切に経営に反映させるよう努めてまいります。

株主優待の実施

京王電鉄およびグループ各社の事業をより深くご理解いただくために、「1,000株以上」保有の株主の皆様に株主優待として「株主優待乗車証」やグループ各社でご利用いただける「株主割引ご優待券」を発行しています。

買収防衛策の導入

京王グループは、公益交通事業者として、中長期的な視点に立った安全対策への積極的な取り組みや、沿線のお客様のニーズに応えるきめ細やかな生活サービスの提供を通じて、沿線価値の向上を図っています。このような取り組みにより、地域社会に貢献することで、企業価値・株主共同の利益の向上に努めています。
しかし、最近のわが国における企業買収の中には、企業価値・株主共同の利益に資さないものも少なくありません。当社は、当社株式に対し、このような大量買付が行われた場合に、買付に応じるか否かを株主の皆様が判断するために必要な情報や時間を確保し、企業価値・株主共同の利益に反する買付行為を防ぐための対策が必要であると考え、2007年6月28日開催の定時株主総会で、当社株式の大量買付行為に関する対応策の基本方針のご承認をいただき、同日開催の取締役会でその具体的な内容の決議を行い、買収防衛策を導入しました。

子育て世代をはじめ、誰もが働きやすい職場づくりに取り組んでいます。

京王電鉄は「信頼のトップブランド」を目指していますが、
実際に、お客様や取引先、地域社会とつながっているのは、一人ひとりの社員です。
私たちは、社員一人ひとりが、社会人として正しい姿勢で、仕事を通じて社会に貢献できるよう、
誰もが働きやすい職場づくりに取り組んでいます。

誰もが働きやすい職場づくり

健康管理

社員ならびに家族の健康維持・増進、疾病予防を目的として、先進の医療機器を備えた「京王電鉄診療所」を有しており、全グループ社員を対象に内科を中心とした診療や定期健康診断などを実施しているほか、産業医を中心とする職場訪問も行い、グループ各社の健康的な職場環境づくりをバックアップしています。また、社会的な問題でもある「心の病」に対しても、従来の産業医・専門医の他に、臨床心理士による相談窓口を新たに診療所内に開設し、カウンセリングを実施するとともに、社員のメンタルヘルスチェックを定期的に実施しています。

女性の登用

1987年以降、毎年4年制大学卒の女性を総合職として採用してきました。2007年7月現在、課長職は7名おります。2007年4月には女性初のグループ会社の代表取締役社長が誕生しました。また、課長補佐職には10名が就いています。鉄道現業における女性社員は、電車乗務員を含め、41名になります。

保育施設

女性が働きやすい職場づくり、グループ社員の育児支援による仕事と育児の両立を促すため、2006年9月に事業所内保育所「サクラさーくる」を開設しました。生後57日目から6歳（就学前）までの子どもを保育対象とし、定員20名のところ、京王電鉄をはじめ常時15名前後のグループ社員が利用しながら、仕事に励んでいます。

その他の育児支援

子供の養育後も引続き勤務する意思のある社員が育児に専念できるよう、子どもが満1歳に達して以降最初の4月15日まで休職できる制度を設けています。女性社員については、過去5年間をみると、出産後全員がこの制度を利用し、その後復職しておりますが、男性社員については未だ利用実績がありません。そこで、京王電鉄は今年度、厚生労働省の外郭団体である『21世紀職業財団』に対し、「男性の育児参加促進事業実施事業主」指定の申請を行い、その指定を受けました。今後、社内検討委員会の設置・運営、実施計画の策定・実施等、男性の育児参加促進事業に取り組んでいきます。

社員の家族による職場見学会

2005年4月に「次世代育成支援対策推進法」が施行されたことに伴い、社員が子どもと触れ合う機会をつくり、また心豊かな子どもを育むため、子どもが社員の働いているところを実際に見ることができる機会として、2006年度から『社員の子どもによる職場見学会』を開催しています。家族にとっては、普段見ることのできない親の働いている姿や職場を見ることで家族間の触れ合いを深め、社員にとっては自分の職場や働きぶりを家族に見てもらうことで、自分の仕事に対する誇りややりがいを高めることにつながります。2007年度は、8月下旬の5日間に、29組66名の家族に職場を見学してもらいました。今後もこうした取組みを通じて、会社・社員・家族のつながり、会社への理解を深めてもらいたいと考えています。

職場見学会風景

障がい者の雇用

障がい者の雇用促進は、企業の社会的責任を果たす上で非常に重要な課題です。それに対応するため、2004年12月に特例子会社「京王シンシアスタッフ」を設立しました。
2006年12月からは、グループ会社に対しても順次関係会社特例を取得し、障がい者雇用を拡大しています。2007年6月現在、京王電鉄および関係会社特例認定※を取得したグループ7社を含めた障がい者雇用率は2.21%となりました（法定雇用率1.8%）。現在障がい者31名が社内施設の清掃業務などに従事しています。

※関係会社特例制度：親会社、特例子会社、関係会社が、一定の要件を満たしている場合、同一の事業主とみなし、雇用率を合算できる制度。
現在の対象会社：京王電鉄バス、京王バス東、京王バス中央、京王バス南、京王百貨店、京王エージェンシー、京王重機整備

京王シンシアスタッフ 作業風景

沿線地域社会とのコミュニケーション活動に積極的に取り組んでいます。

京王グループは、事業を通じて沿線地域の皆様がより快適に暮らしていただけるよう、地域振興に努めていますが、あわせて事業活動や環境保全活動についてご理解いただけるよう、各種イベントやコミュニケーション活動に取り組んでいます。

※最新の沿線地域社会へのサービス向上の取り組みについては、p7をご覧ください。

安全で楽しく暮らしていただくために

こども110番の駅

登下校時に子どもたちが巻き込まれる凶悪な事件が多発していることを受け、国土交通省からの要請により、全国の鉄道事業者で実施しています。京王線・井の頭線全駅を、「こども110番の駅」にし、子どもが助けを求めにきた場合に保護し、事情を伺い必要により110番通報やご家族への連絡などを行っています。

京王それいゆ倶楽部

沿線のシニア世代を対象にした「京王それいゆ倶楽部」が、2005年1月にスタートしました。京王電鉄とNPO、協力企業が連携して、各種フォーラムやセミナーの開催をはじめ、コーラスサークルなどの運営や、各種ライフサポートサービスを提供しています。これまでに、フォーラム「日本のこころ 和の精神」の開催を皮切りに、生活美学講座、女性のための健康セミナーなどを開催しました。2007年3月現在、会員数は約1,300名となっています。

京王グループ感謝祭

京王グループ感謝祭は、お客様や地域社会への感謝・還元イベントで、2007年で14回を数えます。東京オペラシティでのチャリティコンサート「京王音楽祭」をはじめ、聖蹟桜ヶ丘駅周辺での「せいせきフェスティバル」、グループ各社をより身近に感じてもらう「京王ふれあいパークin多摩センター」など幅広いイベントを実施しています。

京王グループを知っていただくために

鉄道施設の見学会

車両の検査・整備を行う若葉台工場などに小学生とその保護者の方をご招待して、見学会を実施しています。

若葉台工場での見学会

京王れーるランド

多摩動物公園駅にオープンした「京王れーるランド」は、2005年3月で5周年を迎えました。縦4m×横7mの9ミリゲージ大型レイアウトで、運転士が実際に使っている電車のハンドルで鉄道模型の運転ができるコーナーをはじめ、プラレールコーナーや京王オリジナルグッズの販売コーナーを設け、鉄道により親しんでいただける内容になっています。

京王れーるランド

京王クリーンキャンペーン

地域の貴重な自然環境の保全を目的に、春は高尾山、秋は多摩川の清掃を行う「京王クリーンキャンペーン」を1991年から継続的に実施。グループ社員をはじめ、沿線地域の皆様にも参加いただいています。

京王クリーンキャンペーン

社会環境ポスター

「もっと住みよい地域へ、地球へ」と題したシリーズで、京王の社会環境活動をご理解していただくために、駅のポスターや電車内中吊で告知しています。

社会環境ポスター

高尾山峰中修行体験合宿

高尾山は山岳信仰の霊場として1200年以上の歴史があります。京王電鉄は、1970年から小学生を対象に、高尾山薬王院での合宿を開催。2007年の7～8月には、小学3～6年生150名が参加し、座禅、入滝などの修行体験をしました。

沿線の子どもたちが参加する「高尾山峰中修行体験合宿」

工事の安全性確保や沿線地域社会の発展に向けて、協力会社や行政とのコラボレーションを進めています。

京王電鉄では、協力会社や行政に対しても「信頼のトップブランド」となるべく、積極的なコラボレーションを進めています。軌道工事や土木・建設工事を委託する協力会社に対して安全教育を実施し、工事の安全性確保に努めています。また、グループの総合力を生かし「沿線地域社会の発展に貢献できること」、そして「京王グループ理念に合致する事業であること」という視点を持ち、自治体とのコラボレーションを行っています。

協力会社とつながりあう

軌道工事を委託する協力会社の作業員に対しては、新人教育をはじめ、定期的な安全教育を実施しています。作業中に列車が近づいたときに笛を吹き、旗を振って作業を中断・退避させる列車監視員に対しては、年1回の教育を実施しています。また、土木・建築工事を行う作業員に対しては、工事に先立って安全教育を行うほか、工事が長期にわたる場合は年1回程度の安全教育を実施しています。さらに、軌道工事、土木・建築工事ともに、ゴールデンウイーク、お盆休み、年末休暇前には安全総合点検を実施し、現場の閉鎖（休みの間、立ち入れないようにする）を確認しています。

行政とつながりあう

杉並公会堂

杉並公会堂の老朽化に伴う杉並区のPFI公募に対して、京王設備サービスと大林組が共同で落札し、2006年6月に新しい杉並公会堂がスタートしました。阿佐ヶ谷がジャズのシンボルタウンであるのに対し、荻窪の杉並公会堂は日本フィルハーモニー交響楽団のフランチャイズホールということもあり、クラッシックの拠点と位置付けられています。この公会堂は、1,189席（車いす席を含む）の大ホールのほか、小ホール、スタジオなどを備えています。京王設備サービスは施設の維持管理だけでなく、コンサートやイベントなどの企画・運営も手がけ、地域社会の文化振興に貢献しています。

杉並公会堂

京王エコ・ステーション永福町

2003年3月に、杉並区初となるCNG（圧縮天然ガス）スタンド「京王エコ・ステーション永福町」の営業を開始しました。このCNGスタンドは、京王電鉄バスグループのバスのほか、杉並区の公用車や一般の方にもご利用いただいています。

京王エコ・ステーション永福町

コミュニティバス

東京都内では、地方自治体が中心となって数多くのコミュニティバス路線を開設しています。京王電鉄バスグループ・西東京バスグループは、住みやすいまちづくりに貢献するため、コミュニティバスの運行を積極的に受託しています。

1986年に日野市で初めて運行を開始し、その後、多摩市、調布市、あきる野市、杉並区、日の出町、小金井市、国分寺市、八王子市、府中市、渋谷区、羽村市に運行を拡大しており、2006年度は調布市、国分寺市からそれぞれ1路線の運行を新たに受託しました。

羽村市コミュニティバス「はむらん」

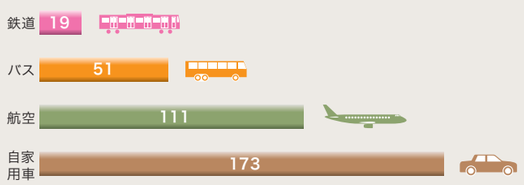
企業の社会的責任の一環として、グループ環境経営を推進しています。

かけがえのない地球環境を守り、後世代に引き継いでいくために、私たち企業としても環境負荷の少ない「循環型社会」の構築を目指すことが不可欠です。京王グループでは「京王グループ環境基本方針」のもと、鉄道事業をはじめとする各部門やグループ各社が事業形態に合わせて、環境保全活動に積極的に取り組んでいます。

鉄道の環境優位性

鉄道は、自家用車などと比べ環境負荷が少なく、エネルギー効率に優れた交通手段です。他の交通手段からの利用転換による環境負荷低減が期待できることから、鉄道の利用促進に向けて、すべてのお客様に安全・快適にご利用いただけるよう努めています。

1人を1km運ぶのに排出するCO_2の比較



（単位：g-CO_2／人キロ）

出典：「運輸・交通と環境2007年版」（交通エコロジー・モビリティ財団）より

鉄道事業の地球温暖化防止対策

鉄道および駅などの施設を、よりエネルギー効率良く運営することで、地球温暖化防止に貢献しています。

車両の省エネルギー化

電力を効率的に利用するため、VVVFインバータ制御装置、回生ブレーキを装備した車両を導入しています。

●**回生ブレーキ**（搭載率：100%）
回生ブレーキとは、電車がブレーキをかけた際にモーターを発電機として作用させ、発生した電力を架線に戻してほかの電車が使えるようにするものです。

●**VVVFインバータ制御装置**（搭載率：58%）
VVVFインバータ制御装置とは、架線に流れる直流を交流に変換し、電車の加速力や速度に応じて電圧や周波数を変化させながら交流モーターを動かすものです。これにより電力を効率よく使用できるほか、保守に手がかからないという特徴を持っています。回生ブレーキとともに使用することで、従来の車両に比べて約30%のエネルギーが節約できます。2010年度の全車両VVVF化を目指して整備を進めています。

駅の省エネルギー化

太陽光発電システムを明大前駅・若葉台駅・高幡不動車両基地に設置し、自動券売機や照明などの電力として使用しています。また、ホームやコンコースの屋根に自然光を採り入れることができる部材を使用することで、照明の消灯に努めています。さらに、半数以上の自動券売機については、お客様が近づいた際にのみ電源が入るようになっているほか、比較的お客様の利用が少ない駅のエスカレーターについてもお客様を感知して自動運転する装置を設置しています。このほか、高効率で消費電力を大幅に抑えた蛍光灯と導光板を用いた、内照式の業務用看板を順次導入しています。

高幡不動車両基地の太陽光発電システム

省資源・廃棄物削減

乗車券のリサイクル

各駅で回収された使用済みきっぷ（普通券・回数券）をトイレットペーパーに再生し、全駅で使用しているほか、使用済みのパスネットカードなどを材料の一部に用いたベンチをホームや待合室に設置しています。また、駅売店などで回収した飲料用ペットボトルを案内看板に再生し、全駅で使用しています。

使用済みきっぷ

トイレットペーパー
1個あたり約60枚のきっぷが使用される

マクラギのリサイクル

井の頭線を中心に進めている、省力化軌道工事※に伴うマクラギの交換により不要となったPCマクラギ（コンクリートのマクラギ）を他の鉄道会社に売却し、有効活用しています。

※マクラギ周辺の砕石をアスファルトセメントで固定することで軌道狂いを防止し、保守の省力化を図るための工事です。

車両・部品洗浄水の節水

若葉台工場では車両や部品の洗浄等に用いる水の使用量を削減するため、「処理水再利用装置」を導入しています。この装置により使用済みの水の汚れを取り除くことで、洗浄水などに再使用することができます。現在、洗浄に用いる水の約40%は本装置により処理されたものです。

処理水再利用装置

騒音・振動の低減

車輪フラット発生の早期発見

雨天時の走行中にブレーキをかけた際、車輪に「フラット」と呼ばれる平らな部分が発生すると、騒音・振動が大きくなります。京王線・井の頭線では、車輪の振動を自動的に検出するセンサーを沿線の各1箇所に設置し、車輪フラットによる振動・騒音を早期に発見し、車輪を削正することで騒音・振動の低減に努めています。

車輪の削正

鉄桁防音対策

鉄製の桁を用いている橋梁においては、下面および側面に防音材を設置するとともに、レールとマクラギの間には防振タイプレートを設置し、騒音・振動の低減に努めています。

ロングレール化

ロングレールとは、200m以上の長さのものをいいます。ロングレール化によりレールの継目箇所を少なくすることで、列車の騒音や振動が減り、乗り心地も向上します。これまでに、曲線半径400m以上の敷設可能区間は、長大橋梁を含めロングレール化を完了しています。

化学物質の削減

シンナーの回収

台車や車体を塗装するためにロボットを使用しており、作業後のロボット清掃にはシンナーを用いています。若葉台工場では、ロボット清掃後に排出されるペンキが混ざったシンナーから、シンナーを分離・回収する「溶剤再生装置」を導入し、回収したシンナーを再使用しています。これによりシンナーの購入量は導入前に比べて半減しました。

環境保全

線路わきの環境保全

1991年度から、線路わきの雑草には除草剤を一切使用せず、人力による草刈りを行っています。また、降雨による斜面の崩壊を防ぐとともにお客様に楽しんでいただくことを目的として、井の頭線を中心に線路わきの斜面にサザンカ・ツツジ・アジサイなどを植栽し緑化を進めています。この取り組みは、2001年2月に第7回杉並「まち」デザイン賞を受賞しました。

工場排水の浄化、再利用による節水

工場で車両洗浄などに使用して排出された汚水については、東京都下水道局が定める放流基準値を満たすように排水処理設備で油類・有機物を除去し、下水に放流しています。

当社のそのほかの
環境保全の取り組みについて報告します。

京王リサイクルパッケージシステム

京王電鉄の「食品リサイクルパッケージシステム」が、「第3回エコプロダクツ大賞※」のエコサービス部門・農林水産大臣賞を受賞しました。このシステムは、京王電鉄のショッピングセンターや京王プラザホテルなどの商業施設からの生ゴミを回収・リサイクルし、堆肥や消臭剤にする循環型の仕組みで、生ゴミの収集・運搬を行う(株)北辰産業、リサイクル処理・堆肥製造を行う(株)アグリガイアシステムとのパートナーシップによって成り立っています。製造した堆肥は、桜ヶ丘カントリークラブの芝に使用するなど、京王グループ各社で活用しているほか、全国の特別栽培野菜生産農家を束ねている「オレンジファーム」を通じて野菜の栽培に利用し、収穫された野菜を、2005年10月から京王ストアで本格的に販売しています。また、京王プラザホテルの一部レストランでも、この野菜を使用した料理をご賞味いただけます。消臭剤は、京王線・井の頭線のトイレなどで使用しているほか、京王百貨店や京王アートマンなどで販売しています。

京王電鉄本社ビルの地球温暖化防止対策

2004年度より、京王電鉄本社ビルの環境マネジメントシステムの構築を開始しました。照明のインバータ化やゴミの分別・リサイクルなど、総務部が中心となったビル全体での取り組みに加え、各年度に省エネや紙削減といった目標※を部署ごとに設定し、全員がもれなく活動に参加する仕組みを構築しています。

※2006年度環境目標に関する活動状況はp29、2007年度環境目標についてはp32をご覧ください。

商業施設などの地球温暖化防止対策

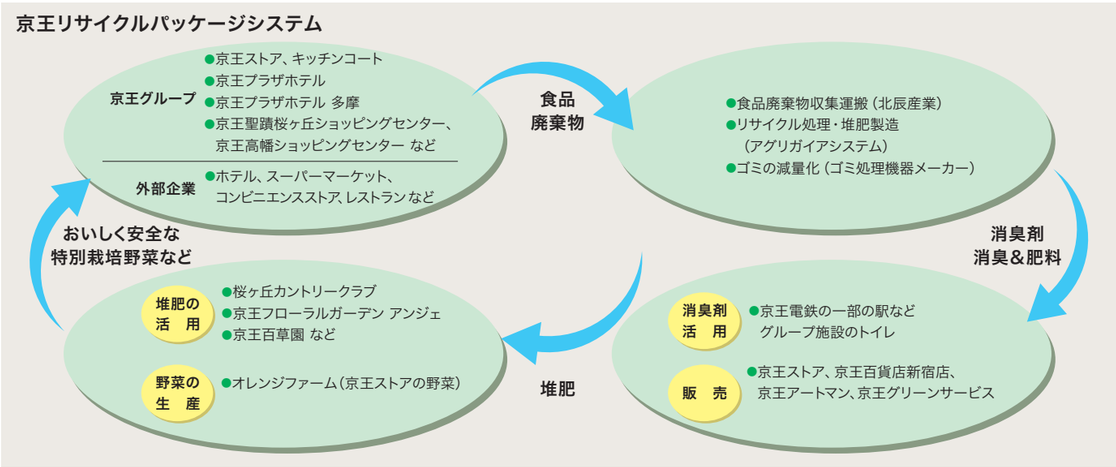
商業施設では、省エネ型エレベーター・空調・照明機器、ガラス面遮熱シートの導入、事務所内での夏季軽装勤務などを実施しています。

また、オフィスビルなどの賃貸物件に関しては、空調機のインバータ化など電力使用量の削減に努めているほか、トイレの自動水栓化、雨水・雑排水の再利用など水使用量の削減も進めています。

※エコプロダクツ大賞：環境負荷の低減に配慮した製品やサービスを表彰することによって、わが国におけるエコプロダクツの開発・普及を促進することを目的に、2004年度に設立された賞です。同賞は、エコプロダクツ大賞推進協議会が主催するもので、「エコプロダクツ部門」と「エコサービス部門」で構成されています。

eco products award 2006

エコプロダクツ大賞表彰式



京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンターの環境保全

京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンターでは、積極的な環境保全活動を推進すると同時に、沿線の身近な地域環境の保全が地球環境の保全につながるという考えを、テナントやお客様と共有しながら、活動を推進しています。

テナントの分別意識啓発

テナント店長会などでゴミ分別の重要性を説明するとともに、2005年1月から分別徹底と排出量抑制のために、ゴミの処理費用を重量に応じた負担とする形に変更しました。また、排出量の少ないテナントをベンチマークできるよう、全館・全店舗のごみの排出量を開示しています。

お客様への働きかけ

せいせき環境展

地域のお客様にショッピングセンターや各テナントの環境活動を報告し、またお客様にも環境保全活動に参加していただく「きっかけづくり」の場となることを目的として2006年6月に「第2回せいせき環境展・賢いエコライフを彩る風呂敷展」を開催しました。今後も環境イベントなどを通して、地域のお客様と一体になった環境保全活動の推進を図っていきます。

太陽光発電システムの導入

2006年12月、多摩市内の大型ショッピングセンターとしては初めて、太陽光発電システムを導入しました。最大発電量は10kwで、CO_2削減量は年間2.8トンになります。蛍光灯250本分の電力をまかなうことが可能で、ショッピングセンターB館8階のレストラン街の照明に使用しています。このほか、エレベーターのインバータ化、照明の省電力型への更新など様々な省エネルギー施策にも取り組んでいます。

太陽光発電システム

※このシステムは新エネルギー財団（NEDO）との共同研究事業として設置されました。この共同研究によって得られたデータは、今後の太陽光発電システムの開発と普及に利用されます。

高尾をテーマにした環境保全活動

高尾の森再生支援

京王グループは、日本山岳会「高尾の森づくりの会」が、裏高尾小下沢風景林で行っている植林活動の趣旨に賛同し、2002年の「第2回植樹祭」から継続的な支援を行ってきました。2007年4月15日に開催された「第7回植樹祭」では、広葉樹の苗木1,000本を提供しました。

植樹の様子

高尾の森こどもキャンプ

京王電鉄は、2003年から日本山岳会「高尾の森づくりの会」と共催で、「高尾の森こどもキャンプ」を実施しています。2007年8月21～22日には、第5回キャンプを開催。小学4～6年生50名が参加し、森林育成のために苗木を植えたり、間伐作業の見学といった環境活動のほか、自然観察や火おこし体験などを行いました。

高尾の森こどもキャンプ

京王グループ各社の
環境保全の取り組みについて報告します。

京王百貨店

京王百貨店では、環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の認証を2003年に新宿店において取得しました。その後、対象を拡大し、現在は全社でISO14001により環境保全の取り組みを進めています。具体的には、電気使用量の削減、印刷用紙および包装用品の削減、ゴミの減量化ならびに分別の徹底、そして環境に配慮した「地球にやさしい商品」の開発・販売を重点課題としています。

電気使用量の削減に関しては、クールビズやウォームビズに後方事務部門で取り組むとともにお客様に対し対象商品のアピールを行っています。また、京王百貨店のオリジナル環境キャラクター「まめ之介」を使い従業員の省エネルギー意識を喚起しています。店内でも、インバーター式の照明機器の導入や空調機の省エネ化を推進しており、環境月間の6月には新宿・聖蹟桜ヶ丘の両店において全国的なライトダウンキャンペーン「ブラックイルミネーション2007」に参加し夜間のライトアップを消灯するなど、啓発活動にも取り組んでいます。

印刷用紙の削減については、両面、縮小コピーの励行をはじめ、資料の共有化や電子化の推進により用紙の使用そのものを減らしています。

包装用品の削減については、日本百貨店協会が提唱する「スマートラッピング」（お客様のご要望に沿い、必要なものはきちんと包装し不要な場合は簡易な包装とする）を推進しています。特に、昨年10月からはオリジナルマイバッグの販売を行い、すでに5,000本以上お買い上げいただくなどお客様にも好評です。なお、その収益については日本山岳会自然保護委員会「高尾の森づくりの会」に寄付をしています。

ゴミの減量化に関しては、新宿店で排出された生ゴミから店内の処理機を使って土壌改良剤「みどりくん」をつくり、東京近郊の農家に配布するというリサイクル活動を行っています。

また、独自の基準に基づいて環境に配慮した商品を認定し「地球にやさしい商品」として展開しています。

環境キャラクター「まめ之介」

京王プラザホテル

京王プラザホテルでは、電気をはじめとするエネルギー使用量の削減、生ゴミのリサイクルなどに重点的に取り組んでいます。エネルギー使用量の削減では、省エネ機器の導入や空調のきめ細かな調節により、東京都の「地球温暖化対策計画書制度」に基づき設定した目標値「前年比1%削減」を目指しています。生ゴミリサイクルでは、「京王リサイクルパッケージシステム」による野菜をレストランで活用しています。

京王リサイクルパッケージシステムの野菜を使ったメニュー例

近年、都市の環境問題としてヒートアイランド現象が問題となっています。ヒートアイランドとは、都市部の気温がその周辺に比べて異常な高温を示す状況のことで、ビルなどから排出される熱に加えてアスファルトやコンクリートにより地表面に太陽光が蓄熱され、それが温度を上昇させる原因の一つとなっています。

地表に水をまくと蒸発する時に地熱を奪い気温を下げる効果があることから、東京・名古屋・大阪・福岡などで都市部の環境対策の一環として道路に水をまく、いわゆる“打ち水”が昨今行われるようになってきました。西新宿においても、京王プラザホテルの「バーズアイ」（エコロジーとバリアフリーをテーマとした当ホテルのプロジェクトチーム）と新宿企業ボランティア連絡会※が中心となり、ヒートアイランド現象を緩和させる環境対策のひとつとして、本年8月3日に京王プラザホテル前の歩道上に打ち水を実施しました。打ち水に使う水には、京王プラザホテルの植栽用の井戸水を提供し、バーズアイのメンバーが設営の準備にあたりました。夕方5時から6時の間で実施しましたが、近隣企業・地域の方々100名近くが参加し、いっせいに打ち水を実施した結果、当初33℃あった地表温度が28℃に下がり、ヒートアイランド現象を少しだけですが緩和させることができました。また、近隣企業や地域の方々との環境対策への取り組みの輪を広げる良い機会となりました。

打ち水の様子

※新宿企業ボランティア連絡会とは、新宿区内でボランティア・社会貢献活動に取り組んでいる企業の集まりで、現在西新宿にある企業18社が参加し、今回の打ち水をはじめ、清掃活動などの環境美化活動なども行っています。

京王電鉄バスグループ

バスは鉄道と同じく環境負荷の少ない公共交通機関です。京王電鉄バスグループでは、1997年よりアイドリング・ストップ運動を開始し、翌年以降導入の新車にはアイドリング・ストップ装置を装着しています。車両に関してはCNG（圧縮天然ガス）バスを46台導入しているほか、2006年度はPM（粒子状物質）やNOx（窒素酸化物）の排出が少ない「尿素式車両」を6台導入しました。乗務員のエコドライブ教育にも積極的に取り組み、2007年3月には、京王電鉄バスグループ5社・全12営業所が、環境保全活動に関する認証「グリーン経営認証※」を取得しました。これを通過点として、今後も環境保全活動を発展させるとともに、接遇の向上、路線網の充実、深夜バスなど輸送力の増強、「環境定期券」「ちびっこ50円キャンペーン」といった割引運賃制度など、サービスの向上を通じて環境負荷の少ない交通機関の利用促進を図っています。

CNGバス

※国土交通省の外郭団体「交通エコロジー・モビリティ財団」が作成したグリーン経営推進マニュアルに基づいて、燃費改善やエコドライブ教育など、継続的かつ計画的な環境保全活動を実施していることが認められた団体に認証が与えられます。

京王自動車（タクシー・ハイヤー）

京王自動車では、積極的にエコドライブを推進し、計画的かつ継続的に環境負荷を低減するために、デジタルタコグラフを利用した「エコドライブ管理システム」を導入しています。これは各車両のデジタルタコグラフに記録された発進・加速・減速・アイドリング時間などのデータをもとに、各乗務員のエコドライブ度を5段階評価するシステムです。デジタルタコグラフのカードを入れると、パソコンで即座に評価を行い、評価をプリントアウトできます。入庫後すぐに、数値によって客観的な評価を見ることができるので、安全・環境の改善に効果的です。このシステムは2007年2月、全車約1,000台に搭載を完了しました。さらに同社では、事故や燃料費の削減メリットが乗務員に還元される仕組みを構築し、全員参加の安全・環境活動を促進しています。

京王設備サービス

京王設備サービスが関わる「ビルの総合管理」「鉄道関連施設の保守管理」「設備工事」の各事業分野において、ISO14001の認証取得に取り組んでいます。すでに、神泉本社・京王百貨店事業所・京王プラザホテル札幌営業所・工事事業部門の4拠点で認証を取得しており、2007年度末までには「指定管理者制度物件分野」で北野余熱利用センターの認証を取得する予定です。

なお、ISOの他分野においては、ISO9001取得に早い時期から取り組み、現在、各事業分野の15拠点で認証を取得し、2007年度末までに7事業所の認証取得追加を予定しています。環境保全とあわせて最高の品質をお客様にお届けするため、全社一丸となった積極的な取り組みを行っています。

京王建設

京王建設では2003年11月、全事業所においてISO14001の認証を取得しています。現在の主な環境負荷低減活動として、工事部門では産業廃棄物の総排出量の削減およびリサイクルの促進、現場周辺の環境および地形状況を考慮した環境保全活動（騒音・振動・粉塵・悪臭等の防止）を実施しています。

また、本社全体で電気使用量の削減、事務用品におけるグリーン製品の購入を実施しているほか、営業部門では環境関連知識の向上を目的とした勉強会の開催、設計部門では環境配慮設計（省エネ設備機器・エコ材料の使用や緑化の提案）の推進をそれぞれ実施しています。

さらに、府中駅および本社周辺の清掃活動をボランティアで行うなど、全社一丸となって環境リスクの低減に努めています。

2006年度環境目標と活動実績

社員一人ひとりの積極的な取り組みにより、2006年度の環境目標を、ほぼ達成しました。

京王電鉄では、2004年度から本社ビルで環境目標を設定し、目標達成に向けた活動を行っています。2006年度も環境目標を設定し、活動の結果、本社ビル全体の電力使用量削減など一部未達成の目標もありましたが、概ね目標を達成することができました。これを受け、2007年度環境目標※を設定し、引続き環境保全活動に取り組んでいます。

※2007年度環境目標については、p32をご覧ください。

2006年度　環境目標と活動実績

重点項目	環境目標	活動部署	活動実績
1.省エネルギー	(1) 本社ビル全体の電気使用量を前年度比7%削減 (7%のうち、省エネルギー行動で2%、総務部実施の照明器具更新で5%削減)	本社共通	電気使用量1,564千kWh/年（前年度比3.4%減）
	(2) 車両機器の省エネルギー装置への置換え	車両電気部	エネルギー効率の良いVVVF制御装置を搭載した新型9000系車両を30両導入 既存の7000系車両24両をVVVF制御装置に更新
	(3) 省エネルギーへの配慮を盛り込んだ設計留意書の作成 (新規開発物件用の建築設備基準書)	開発推進部	基準書の草案を作成し、実際の新規2物件で、基準書をもとに設計協議を実施
2.紙の使用量削減	(1) 使用量（総務部取次分）500万枚以内	本社共通	紙使用量522万枚（前年度比4.8%増）
	(2) 経理部独自購入用紙を前年度比3%削減	経理部	前年度比4.1%減
	(3) 印刷費を前年度比10%削減	人事部	前年度比14.3%減
3.廃棄物削減 リサイクル	(1) ゴミ再資源化率80%以上	本社共通	再資源化率85.2%（前年度比4.6ポイントアップ）
	(2) IC乗車券の開発による乗車券類の廃棄物削減	鉄道営業部	2007年3月18日からICカード乗車券 “PASMO” サービス開始
	(3) マクラギのリサイクル	工務部	省力化軌道工事により交換したPCマクラギ4,500本を同業他社に売却、再利用
	(4) 車両内装材等の材質変更による廃棄物削減の検討	車両電気部	車内シートクッション材をリサイクル可能なものに変更（2007年度実施）
	(5) 京王フローラルガーデン内で発生する廃棄物の削減	開発企画部	藻・芝・落ち葉を京王リサイクルパッケージシステムでの回収に変更し、可燃ごみを削減（前年度比69%減）
	(6) 廃棄物等の適正処理・管理の徹底	開発推進部	PCBについて、処理登録を済ませ、管理状況を東京都に定期的に報告
	(7) テナントへの廃棄物分別・削減指導、従量課金制導入準備	SC営業部	テナント店長会などで指導。廃棄物排出量は前年度比0.3%減。従量課金制府中SCで導入準備
	(8) 京王リサイクルパッケージシステムへの加入促進	事業推進部	新たに、グループの店舗9店、外部企業12事業所が加入
	(9) 廃棄物の分別の徹底	経理部、人事部	分別重点ルールの掲示等により徹底
4.水の使用量削減	(1) 本社ビル全体の上水使用量を前年度比3.5%削減	総務部	上水使用量前年度比6.75%減
5.グリーン購入	(1) グループ共同購買におけるグリーン購入の促進および環境の整備	グループ戦略部	グリーン購入比率　　電鉄：45.0%（前年度比4.1ポイントアップ） （金額比）　　グループ全体：48.6%（前年度比0.7ポイントアップ）
6.環境教育 啓発活動	(1) 環境保全意識向上のための現業教育実施	鉄道営業部、工務部、 車両電気部	教育計画に基づき実施
	(2) 物件管理委託者・テナントに対する省エネルギー啓発活動の継続	開発企画部	活動継続中
	(3) リサイクルパッケージシステム提携先や契約農家を訪問するエコツアーの実施	事業推進部	2006年4月、2007年3月の2回実施
	(4) 環境マネジメントシステム構築範囲の拡大	総務部	2007年3月、EMS構築を開始するグループ18社に対し、説明会を開催。構築推進中
	(5) 社会環境活動のPR（ポスター制作ほか）	広報部	PRポスターの制作7回、ニュースリリースの発行5回
	(6) 京王クリーンキャンペーンの開催（年2回）	広報部	2006年5月、11月の2回開催
	(7)「高尾の森づくりの会」活動を支援	広報部	2006年4月開催の植樹祭に参加し、1,000本を植樹
	(8) CSRの必要性の意識づけ（新入社員教育）	人事部	2006年4月、教育実施

※鉄道事業部門の計画管理部、一般管理部門の総合企画本部経営企画部、秘書室、監査役室および法務部は、本社共通目標に関する活動を実施しました。

事業部門ごとに環境負荷を把握し、負荷低減に向けた活動を進めています。

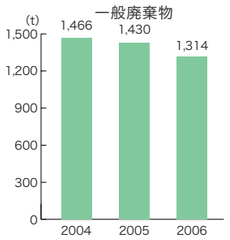
京王電鉄では、従来から積極的に環境負荷の削減に取り組むとともに、2004年度からは事業部門ごと※の環境負荷を把握し、負荷低減に向けた活動を推進してきました。2004年度から2006年度の環境負荷の推移をご報告します。

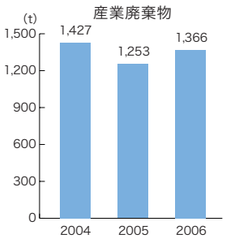
※京王電鉄の事業として「鉄道事業部門」、土地・建物の賃貸業・販売業を行う「開発事業部門」、および会社全般の管理業務を行う「一般管理部門」があります。
これらの各部門は、それぞれ事業形態および重要な環境負荷が異なるため、部門ごとの集計としています。
注)なお今回の集計にあたり、過去の集計を再チェックした結果、単位の違い（kl、m³⟷l）などによる誤りを発見しましたので、今回訂正させていただきます。
この部分については、斜字体で記載しております。

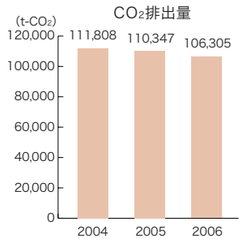
鉄道事業部門の現業事業所

集計対象は電車の運行、駅など鉄道事業に関わる事業所です（本社除く）。
本報告書で開示し始めた2004年度以降着実に電力消費を減らしています。

前年度比で2005年度は-1.2%、2006年度は-3.7%という結果が得られています。なお、2004年度の水使用量については一部事業所での数値を把握することができていませんでした。



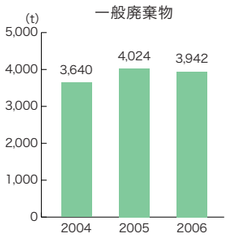


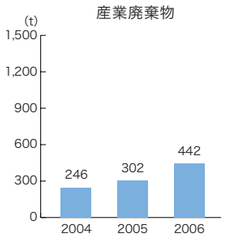


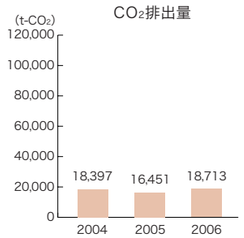
	2004	2005	2006
電気（千kWh）	310,230	306,415	295,116
都市ガス（千m³）	50	44	42
LPG（千kg）	23	17	16
石油系燃料（kl）	303	283	280
水（m³）	148,667	446,520	449,984
事務用紙（千枚）	1,465	1,992	2,121

開発事業部門の管理物件

集計対象は、自社で管理しているショッピングセンターおよび京王フローラルガーデンです。2006年度は一般廃棄物は若干減らすことができましたが、産業廃棄物・エネルギー・CO_2などは新店舗開業により増加しました。





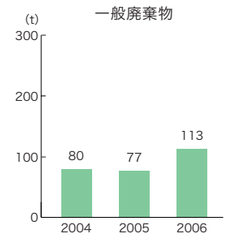


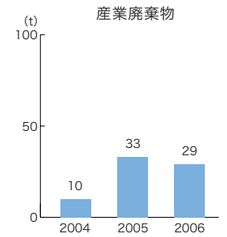
	2004	2005	2006
電気（千kWh）	49,301	*48,417*	50,783
都市ガス（千m³）	330	242	268
石油系燃料（kl）	*3*	*1*	2
水（m³）	*340,226*	341,398	400,127
事務用紙（千枚）	678	877	1,074

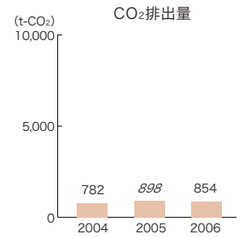
本社ビル・一般管理部門

集計対象は本社ビル、診療所、平山管理センター（研修施設）、京王クラブ（社員クラブ）です。2006年度は産業廃棄物を若干減らすことができましたが、一般廃棄物は増加しました。

CO_2排出量は2005年度から社員クラブを含めたため2004年度と比べ増加しましたが、今年度は若干減らすことができました。







	2004	2005	2006
電気（千kWh）	2,010	2,225	2,129
都市ガス（千m³）	10	26	28
石油系燃料（kl）	18	18	14
水（m³）	*13,823*	18,900	18,752
事務用紙（千枚）	5,241	5,465	5,285

2007年度の環境目標を設定しました。目標の実現に向けて、積極的に取り組んでいきます。

京王電鉄では、2006年度の活動実績※を受け、2007年度の環境目標を設定しました。
この目標を事業の現場に落とし込み、社員一人ひとりが目標の実現に向けて取り組んでいきます。

※2006年度環境目標と活動実績については、p29～30をご覧ください。

2007年度　主な環境目標

項目	目標	活動部署
1.省エネルギー	(1) 本社ビル全体の電気使用量を前年度以下に抑制	本社共通
	(2) 車両機器の省エネルギー装置への置換え検討・推進	車両電気部
	(3) オフィスビルの電気使用量を前年度以下に抑制	開発企画部 開発推進部
	(4) 各ショッピングセンターにおける照明・空調機器等の省エネルギー化	ＳＣ営業部
	(5) 設備更新による省エネルギー化（空調設備更新検討、トイレの節水施策実施）	総務部
2.紙の使用量削減	(1) 使用量（総務部購入分）500万枚以内	本社共通
	(2) 現業事業所におけるコピー用紙購入量を前年比1%削減	車両電気部
	(3) 経理部購入用紙の購入量を前年度以下に抑制	経理部
3.廃棄物削減 リサイクル	(1) ゴミ再資源化率80%以上	本社共通
	(2) 新型ベンチの導入 (3) IC乗車券の利用促進による廃棄物の削減	鉄道営業部
	(4) 工事発生資材のリサイクル	工務部
	(5) 従量課金制や分別の徹底による廃棄物リサイクルの推進	SC営業部
	(6) 廃棄予定パソコンのリユースの可能性検討	経営企画部
	(7) 京王リサイクルパッケージシステムへの加入促進	事業推進部
	(8) 独自の重点ルール設定によるゴミ分別の徹底（京王電鉄診療所、平山管理センターでも実施）	人事部
4.水の使用量削減	(1) 本社ビル社員食堂の水道使用量を前年度以下に抑制	人事部
5.グリーン購入	(1) グループ共同購買におけるグリーン購入の促進および環境の整備	グループ戦略部
6.環境教育 啓発活動	(1) 環境保全意識向上のための現業教育および廃棄物処理施設の見学実施	工務部
	(2) 新規配属者の環境保全意識啓発のための教育の実施	開発企画部 開発推進部
	(3) 環境社会教育プログラム（環境を学ぶエコキャンプ、小学生向け）の実施	
	(4) リサイクルシステム提携先の施設や契約農家を利用・紹介するエコツアーの実施	事業推進部
	(5) 社会環境活動のＰＲ実施（ポスター制作ほか）	広報部
	(6)「高尾の森づくりの会」の活動支援（植樹）や「高尾の森こどもキャンプ」（環境教育）の実施	

※鉄道事業本部計画管理部および一般管理部門の秘書室・監査役室・法務部は、本社共通目標に関する活動を実施する。
※監査部は、本社共通目標に関する活動を行うほか、通常の監査業務の中で廃棄物処理状況等環境側面に関する監査を実施する。

2006年度は、踏切の解消、車両・機器の省エネルギー化などに、約105億円の環境投資を行いました。

京王電鉄では環境負荷の削減を目指し、従来から車両や駅舎の省エネルギー化、廃棄物のリサイクルなどに取り組み、2004年度に初めて環境会計を公表しました。環境保全コストは、2004年度は約44億円、2005年度は約65億円、2006年度は約105億円と推移しています。2006年度は、騒音・振動防止および踏切解消のための「連続立体化工事」の推進、地球温暖化防止のための「車両・機器の省エネルギー化（省エネルギー車両の新造、制御器のVVVF化）」、磁気カード等の廃棄物の発生抑制にもつながる「IC乗車券システム」の導入などを実施しました。今後は、コストだけでなく、環境保全効果についても定量的な把握ができるよう検討を重ね、環境保全活動をより客観的に評価できるよう努めていきます。

［対象期間］

2006年4月1日～2007年3月31日

［対象範囲］

京王電鉄株式会社の鉄道事業部門、開発事業部門、一般管理部門で発生した環境保全コストを対象としています。（グループ各社で発生したコストは含んでいません）

［算定基準］

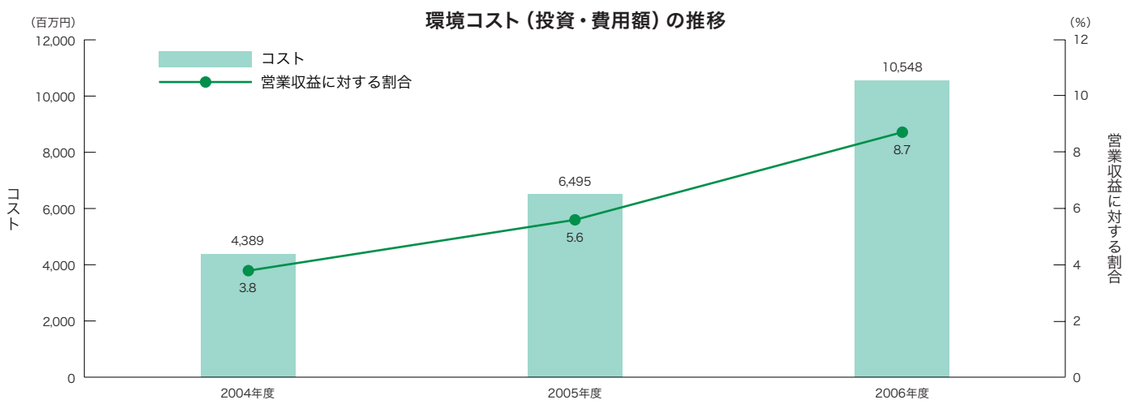
1. 「環境省環境会計ガイドライン（2005年版）」および「民鉄事業環境会計ガイドライン（2003年度版）」を参考に集計しています。
2. 環境保全コストとして確実に把握したものについてのみ計上しています。
3. 減価償却費は計上していません。

環境保全コスト

（単位：百万円）

分　類		主な取り組み内容	2004年度 投資	2004年度 費用	2005年度 投資	2005年度 費用	2006年度 投資	2006年度 費用
（1）事業エリア内コスト			3,075	1,079	4,695	1,640	7,887	2,488
内訳	（1）－① 公害防止コスト	騒音・振動防止、水質汚濁防止	1,099	513	2,082	813	3,641	1,539
内訳	（1）－② 地球環境保全コスト	地球温暖化防止、オゾン層保護、省エネルギー化等	1,780	18	1,779	183	2,673	325
内訳	（1）－③ 資源循環コスト	廃棄物発生抑制、リサイクル等	196	548	834	644	1,573	624
（2）管理活動コスト		環境マネジメントシステム関係、教育、周辺緑化	105	79	59	95	51	115
（3）社会活動コスト		自然保護	0	6	0	7	0	7
（4）その他コスト		機器更新による効率化等	35	7	0	0	0	0
合　計			3,216	1,172	4,753	1,742	7,938	2,610
コスト総計			4,389		6,495		10,548	

百万円未満切捨



報告書の継続的改善につなげるため、外部識者のご意見をいただきました。

当報告書は、京王電鉄にとって3回目の報告書（前回より名称を「安全・社会・環境報告書―CSRレポート―」と改称）となります。報告内容や構成など、報告書の継続的な改善につなげるため、昨年度に引き続き、外部識者のご意見をいただきました。

京王電鉄株式会社
取締役社長
加藤 奐 殿

「京王電鉄安全・社会・環境報告書2007～CSR レポート」についての第三者所感

平成19年10月3日
株式会社 トーマツ環境品質研究所
代表取締役　古室 正充

「京王電鉄安全・社会・環境報告書2007～CSR レポート」（以下報告書という）における2006年度の活動を拝見し、所感を述べさせていただきます。なお、本所感は、報告書に記載されている情報の正確性等につき、一般に公正妥当と認められる基準を判断基準として第三者審査意見を述べるものではなく、かつ、その他保証又は証明を行うものでありません。

1. 安全・社会・環境活動の充実化に向けて

トップのご挨拶及び編集方針に「安全」が「最大の使命」という強い姿勢が示されております。この考え方の実現として、PDCAサイクルを備えた「運輸安全マネジメント」による安全管理体制の強化、昨年度新設された「安全担当」「研修担当」が記載さており ます。さらにトップのご挨拶では、この「運輸安全マネジメント」の展開について、規模にとらわれない京王グループの運輸事業各社への展開も宣言されております。

社会面では、特集で取り上げられている「子育て支援サービス」等、社会的課題と貴社の事業活動との関連性から各種実験的な取り組みがなされております。

環境面では、グループ各社へのISO14001、国土交通省が推進しているグリーン経営認証の取得が記載され、全てのグループ会社で環境マネジメントシステムの導入が宣言されおります。導入を志向されている環境マネジメントシステムがISO14001タイプなのか、グリーン経営タイプなのか、または認証取得まで想定されているのか等の基本方針を明確にされてはいかがでしょうか。

今後は、上記の「安全・環境」マネジメントに関する範囲の拡大と定着化を図られること期待しております。また、「社会面」の活動については、今後とも貴社の事業活動との関連性から創意工夫された活動の推進を期待しております。

2. 報告書の進化に向けて

編集方針にも示されておりますが、読者アンケート結果を踏まえた環境に関する開示の充実化が図られております。具体的には、環境テーマでの特集での取り上げ、目標について、今年度活動に対する実績及び来年度の目標の新規開示等が図られております。また、昨年度の改善として、単年度表示であった各事業部の主要なインプット、アウトプット情報を今年度は3ヵ年の経年推移で記載する等の改善も図られております。なお、目標については、今年度の実績に数値が示されている項目に対して、来年度目標は定性情報にとどまっている項目が見受けられます。実績数値の記載が可能であれば、目標化することをご検討されてはいかがでしょうか。

また、読者アンケート結果を踏まえた報告書記載事項の改善は、報告書の双方コミニュケーションツールとしての活用の工夫であると考えます。来年度は、アンケート結果で頂いた意見・要望に対して、会社としての対応回答を示すようにして、報告書における双方向性の充実化を図られてはいかがでしょうか。

なお、環境活動面に比して、社員の雇用統計情報・健康診断受診率、顧客満足度等の社会活動面における定量情報及び報告書記載の安全・社会活動に関するお客様・社員等のステークホルダー自身の声・評価が不足している感があります。これらの充実化を検討されてはいかがでしょうか。

3. さいごに

報告書は対象としている貴社の安全・社会・環境活動の鏡であると考えています。

今後とも企業経営の一環として安全・社会・環境活動を捉え、推進されると共に報告書のますますの進化を図られることを期待しております。

以上

（表紙の説明）

まるで緑のじゅうたんを敷きつめたよう。京王相模原線沿線の別所公園※での1コマです。

少女は、緑の公園とここへ連れてきてくれる電車が大好きです。

京王電鉄は東京都心部と自然豊かな多摩西部とを結び、

多くの方々に環境にやさしい交通手段としての「鉄道」を提供しています。

世界的に環境問題が叫ばれる中、当社はこの自然を子どもたちの世代に継承していきたいと考えています。

そのために、この都市と自然をつなぐ環境負荷の小さい鉄道をこれからも発展させ、

より多くの皆様に安全にご利用いただけるよう努めていきます。

※八王子市別所2丁目（京王相模原線京王堀之内駅から徒歩10分）

京王電鉄株式会社

〒206-8502
東京都多摩市関戸1丁目9番地1

安全・社会・環境報告書に関するお問合わせ
総務部 環境担当
TEL. 042-337-3038
FAX. 042-374-9816
www.keio.co.jp

ミックス品
FSC認証林及び管理された森林からの製品グループです
www.fsc.org Cert no. SA-COC-1196
© 1996 Forest Stewardship Council

PRINTED WITH SOY INK

この安全・社会・環境報告書の用紙は、FSC認証紙を使用しています。
印刷は水なし印刷で、インクにはNonVOCインクを使用し、環境負荷の低減を図っています。

発行2007年10月